

● 第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 2 号 )



1 平成元年6月19日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 脇田 安保  
3 番 田沢 勝信  
5 番 岩村 勝弘  
7 番 生稲 隆  
9 番 山口 康雄  
11 番 神田 守隆  
13 番 山中金治郎  
15 番 横溝 功  
17 番 石井 謀  
19 番 川名 正二  
21 番 辻田 実  
23 番 流山源次郎  
26 番 近藤 好雄  
28 番 飯田 義男

2 番 永井 龍平  
4 番 庄司二三男  
6 番 山崎 雅己  
8 番 鈴木 勝美  
10 番 鈴木 忠夫  
12 番 榎本 春光  
14 番 小宮 利夫  
16 番 石井 昌治  
18 番 日下 君敏  
20 番 福原 勤  
22 番 黒川 平治  
25 番 渡辺 昭夫  
27 番 林 豊

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 半澤 良一  
収 入 役 渡辺 弘  
総 務 部 長 渡辺 秀夫  
経 済 部 長 安西 良一  
教 育 委 員 会 長 杉村 芳枝  
教 委 員 長

助 役 小倉 澄男  
市長公室長 錦織 茂  
民 生 部 長 小幡 清之  
水 道 課 長 鈴木 信一  
教 育 委 員 会 長 福原 修  
教 育 長

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄  
書 記 鈴木 哲  
書 記 加藤 浩一

事 務 局 長 補 佐 兵藤 恭一  
書 記 鈴木 修一

# 1 議事日程（第2号）

平成元年6月19日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（飯田義男君） 本日の出席議員数26名、これより第2回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

◎議長（飯田義男君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月13日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

5番議員岩村勝弘君。御登壇願います。

（5番議員岩村勝弘君登壇）

◎5番（岩村勝弘君） 平成元年第2回6月定例議会に通告質問をいたします。

私の今回の通告質問の基調をなしているのは、市政に対するアンケート調査を実施した結果、市民の声として2つの大きな問題とそのそれぞれの問題に3つずつ設問を設けました。第1に、市政の基本方針である人間尊重による文化福祉都市の現状と将来の見通しを問うものであります。第2に、リゾート法の重点地域の指定を受けて事業が具体的にスタートした現在、民活に

よる不安はないのか、具体的にお話を聞かせていただきたいと思っております。

以上の2点について質問に入る前に、先ほど申し上げましたように、私的なアンケートではありますが、その概要をお聞きいただければ私の通告いたしました趣旨が理解しやすくなると思いますので、まずその点を御説明申し上げます。

アンケート調査は、地域は八幡、三軒町、鶴ヶ谷で、回収率は56% — 半数ちょっとでございました。項目は8項目であります。まず、第1項目、あなたが市政で一番やってもらいたいことは何ですか。その希望することの中で、70%はいわゆる上下水道を軸とした市道の舗装、道路側溝、生活道の舗装の問題であります。

第2項目、市政に不満があるかないか。これは第1項目の裏腹の問題で、多方面にわたっておりました。多少の一例ですが、市役所窓口の改善、どぶからの悪臭、レジャー施設がない、大規模店の誘致、城山に税金のかけ過ぎ、市役所の吏員と議員が多過ぎる等でございました。

第3項目、館山市の現状と将来像について。1位はさすが市長さんの提唱されている文化都市を目指すという、この項目が1位でございました。2位は自然環境を大切にする都市、3位、観光リゾートを基盤とする都市、4位、経済力豊かな人間味あふれる都市、この4位までのことでございますけれども、これは各項目が断トツに多いというわけではなく、1位から4位まではいわゆる30%の、市民の考え方はそういうバランスを持った考え方でございました。

第4項目、行政で感謝または評価している点。環境衛生課のごみ収集については大変御苦勞をかけているというようなことと、保健課の総合検診、それから八幡高井線の道路の完成間近に控えているということ、そういうようなことでございますけれども、概して評価する点が少ない現状でございます。

第5項目、リゾート法の重点地域に指定されて、1、期待はしているが不安もある — これが大部分でございました。60%。余り期待しない20%、それから大いに期待するということと反対であるというのが10%ぐらいずつ。

これはリゾート法についてエリア以外の市民は無関心であるというようなことがうかがえました。

第6項目目、海岸で遊んだり海水浴をしますか。多少はある — これがほとんど90%、北条、八幡海岸はだめである、海と海岸の汚れを指摘する人たちが圧倒的でありました。

第7項目目、城山の利用。これは地域が離れているせいか、調査地域の八幡を中心とする調査地域では余り利用しない — これが圧倒的な90%。城山にあれだけのお金をかけるなら、日常の環境をよくしてもらいたい。

最後の第8項目目、インフラ整備の件。今まで余りよくない90%、これは第1項目の希望するということの意見と大体一致しておりました。

以上の状況でしたが、市でも過日16日の新聞報道で7月初めまでに市民の意向調査をし、次の基本政策の参考資料にするとのことですが、私は大賛成で、専門家の官吏の方の立案も結構ですが、市民の声を大切にしてください。その記事を読みながら、設問中にあなたはゆとりの時間をどう過ごしておりますかという項目は私は大変興味を持ちました。今後のリゾートを占う大変よい設問と思いました。

それでは、本題の上下水道の現在の展望をお聞かせ願いたいのです。この件は既に先輩議員から3月議会でも出され、リゾート絡みで集中的に発言されましたが、夏季に特別需要の多いアンバランスな状況と水資源そのものの不足している館山で御苦労なことと存じます。再度お聞かせ願いたいと思います。

また、下水路についても長期展望に立っての御計画を再びお教え願いたいと思います。公共下水道は本年度基礎調査に入ったわけですが、具体的な計画をお示し願いたいと思います。海へ行かないのは時間的ゆとりがないためだけではなく、海が汚いからです。海洋性リゾートタウンを標榜する館山の裏方さんとしての大変なことがございますでしょうが、御努力願いたいと思います。

次に、文化問題でございますが、最初に文化都市を目指す都市ですから、県の指定無形文化財のお三方、すなわち刀剣の石井昌次さん、唐棧織の斉藤

さん、そして綴錦織の和田秋野さん、特に和田さんは高齢の独居老人です。悩みの一番は後継者がいないということだと申しております。後継の方も、何か寂しい環境にある和田さんのことを考えると、消極的になるのも自然かもしれません。県の指定ですが、市はどのように対応されていますでしょうか。

次に、福祉問題について。高齢者事業団のことですが、私ども文教民生委員会で昨年九州の春日市、日田市を視察したわけでございますけれども、昨年の12月議会に、これもそれをもととして、永井議員から詳細にわたっての質問があり、続いて1月に文教民生委員会で検討研修会を持ったわけでございます。まだそれから6カ月の期間ではございますので、その後の経過といっても御無理な点があるかと思いますが、見通しと重点についてお聞きしたいと思います。

次に、大きな2番目、リゾート法の重点地域に指定されて現在スタートしているわけでございますけれども、私はリゾート問題が起きた当初、民活によるリゾート地の建設に一も二もなくもろ手を上げて賛成しました。と申しますのも、1,500億とか1,800億とかの資本を投下するということで、館山市が飲まず食わずで15年間分の経常予算を使うのと同じ金額です。企業を産業面で誘致するのも、リゾート形成のために誘致するのも、館山のためになるのは同じではないかと思ったからであります。ですから、本当に指定が受けられるのかどうか、そのことの方が心配だったわけでございます。

ところが、最近、前国土庁の政務次官の大原一三氏が「これでよいのかリゾート開発」と題し、副タイトルで「理念なきリゾート開発は必ず失敗する。企業だけがうまみを吸い、自治体が見捨てられることにもなりかねない。今フィーバーするほど後のツケは大きくはね返ってくるだろう」という文を発表しているのでございます。これはそういう警告と同時に、こういうノーハウがあるというような内容で書かれていると思いますが、しかしそういう副タイトルが出ておったわけでございます。下手な考え休むに似たりと思っておりますけれども、つい考えてしまうところもあるのです。アンケートで「期待するが、不安もある」と答えた方々の意見が統計学的に見て何か警鐘のように思えてくる昨今であります。

私はリゾート研修会には欠席したことがありませんし、今度も3日後の読売新聞主催、関係6省庁の後援の東京プレスセンターにおけるシンポジウムにも参加する予定でございます。大企業だから安心だと言える既成概念があるのです。外国へ行っても、日本を知らない人でもヒタチ・イズ・ジャパン、トヨタ・イズ・ジャパンでわかるのです。そのくらい企業の持っている力は大きいと思います。しかし、ここで待ってみろ、ついこの間の横浜博覧会に関連した事業でエリザベス2世号で遊ぶ会を西友のセゾングループ主催、横浜市、横浜商工会議所の後援で開催したら、御存じのように20億の赤字を出したと報道されております。ですから、リゾートについてもコンセプトに対応することが大切であると思うのであります。今スタート台のところにおけるわけです。まず市民の期待と不安に応えるべきだと思うのであります。そのことが第1点でございます。

第2点は、私は将来が現在見えておりません。どのくらいの人がレジャー人口になるのか、どんな時代がやってくるのか。東京ディズニーランドのインタープランナーの長谷川さんは、みんなが生活を楽しむことが大切です。官民、地元一体になって構成に参加し、実践していかなければなりません。官が率先して土曜閉庁に、民間は既に休暇をとる人に奨励金を出す時代になっております。そこで、土曜閉庁にしても住民がコンセプトを持っていないと問題の混迷を深めてしまうのであります。だから、リゾートづくりはまちづくりであると言われるゆえんでございます。

そこで、企業調査の結果を市民に関係ある項目についてできるだけ公表してもらいたいのであります。1,000億、2,000億の原価計算をスーパーコンピューターによってはじいたものを素人の我々がわかるわけではない、そこで具体的なことをわかるように説明していただきたいと思います。

第3は、市はリゾートと整備のため、財政的負担といいますが、経済的な負担をどのくらいするのかということです。市には経済的負担はありませんというならば結構ですが、もし市にインフラ等で相当額の負担があると、城山のようにあれだけかけるならその何割かを生活環境の方にかけてもらいたいという意見がまたぞろ出るのではないかと思いますのであります。

研究会の組織も企業と役所の人が中心のようですが、広く人材を結集して、地域の自分たちのリゾートだという感覚を持ってもらうことだと思います。と申しますのは、最近九州の草千里で有名な阿蘇町のリゾートは、自分たちの土地は売らず、自分たちの手をつくろうと、住民の意思決定をしながら盛り上げていこうとしているのであります。先ごろその先進地としてスウェーデンの首都ストックホルムの北 140キロのダーラナ、テルベリーを視察しているそうでございます。つくり方の発想が違うという、また出てきたものは違うわけでございます。リゾート開発には市の役割は大きいと思います。今どんな点に重点を置いておりますか、お伺いいたします。

以上で質問を終わりますが、再質問もいたしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

これがそのときに行ったアンケート用紙の回収された用紙でございます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 岩村議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、その小さな第1点でございますが、上下水道の整備の状況についてでございます。まず、上水道整備につきましては、現在市の施設は3つのダムと24本の井戸により8カ所の浄水場で運営しておりますが、年間の降雨量によっては原水の不足、また夏の一時的給水の対応に苦慮している現状でございます。今後水需要の増大に対処するため、現在県で進められております広域的な観点から長期的に安定した水源を利根川水系より求めた南部地域総合利水計画により、将来の水問題は解決できるものと考えております。

次に、下水道でございますが、公共下水道の整備につきましては、昭和63年度に基礎調査を実施し、本年度基本計画の策定を行い、住民の皆様の意向を踏まえて、都市計画決定、さらには水資源や長期的な財政計画等を見きわめながら、早期に事業計画、実施計画へと進んでまいりたいと考えております。また、都市下水路、排水路につきましては、公共下水道が整備されるまでの間、排水不良箇所について公共下水道との整合を図りながら計画的に整

備を進めてまいりたいと考えております。

次に、市道側溝の整備につきましては、地域住民からの要望も数多くなされておりますが、次の点について特に考慮し、整備を行っております。1つ、側溝がなく、雨水や溢水及び雑排水の処理に困っているところ、2つ、側溝を改修することによって交通障害が解決できるところ、3、老朽度の激しいところ、4、道路改良によって新たに布設しなければならないところ等、以上のような観点に立って、現況調査を踏まえ、優先度の高いところから整備を進めているところでございます。

次に、小さな第2点、県指定文化財の御三方についての問題でございますが、教育長から答弁を申し上げます。

小さな第3点、その後の高齢者事業団の設置方についての御質問でございますが、高齢者事業団につきましては、高齢者の生きがい対策、健康づくりを趣旨とした高齢者働く会についてのアンケート調査を実施いたしました結果、昨年の12月議会で御答弁を申し上げたように、参加希望者 316名中現在職業についている方が 120名もおられ、さらにはかなりの高給を希望し、生活給を求めている傾向が見られ、高齢者働く会の趣旨が徹底されなかった面が見受けられました。この結果を踏まえ、本年1月27日の文教民生委員会協議会において御協議をいただきましたが、雇用関係を前提とした就労対策ではなく、やはり生きがい対策として自主的に働こうとする団体を育成すべきであり、結論を急がずに再度参加希望者の意思確認をとりながら、今後なお慎重に協議を重ね、設置の方向で検討すべきであるとの方向づけをいただきましたので、社会情勢の変化等を踏まえ、引き続き設置の方向で現在調査検討をいたしているところでございます。

次に、大きな第2点のその小さな第1点、リゾート法に関連する問題でございますが、市民は期待と不安があり、これに対して具体的に問題点を説明していただきたいと、こういう御質問でございますが、期待される効果といたしましては、民間施設の整備に伴い建設等の直接的投資が見込まれるほか、整備後においては雇用が拡大するとともに、滞在者等による消費需要の拡大の波及効果として、第1次産業を初めとする関連産業が振興され、経済活動が

活性化されることになると考えております。さらに、地域全体のイメージアップ、人的交流等により地域の活性化に寄与することが期待されております。一方では、自然環境の保全との調和、あるいは農漁業等既存産業の健全な発展との調和を図るなど、配慮しなければならない事項もございますので、諸計画についてその進捗状況に合わせて開発関係地域説明会及び広報等でお知らせし、市民の御理解と御協力をいただいて進めてまいりたいと考えております。

次に、第2点、企業のフィージビリティースタディー — つまりそれぞれの計画の実現可能性調査の内容等についての御質問でございますが、投資計画、収入計画及び要員計画を初めとした総合的な事業収支につきましては、各プロジェクトとも企業秘密になりますので、公表することは差し控えたいと存じます。ただし、雇用計画等必要な事項につきましては御報告してまいりたいと考えております。現在雇用計画につきましては、3プロジェクト合計でおおむね1,000人が見込まれております。

次に、小さな第3点、リゾート整備に財政的負担と市との役割をどう考えているか、こういう御質問でございますが、開発予定地域内での市の財政的負担につきましては、原則として開発事業者の負担で整備するよう開発事業者と協議しているところでございます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 県の指定無形文化財の御三方について市はどのように対処されているか、このような御質問でございますが、近年特に無形文化財につきましては人びとの関心が非常に高まってきております。これを多くの市民の方々に御認識していただくため、御三方の御理解のもとに市民への公開の機会の提供や資料等により周知させているところでございます。また、後世に伝えるためにも写真やビデオ等を活用して記録保存にも努めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 岩村勝弘君。

◎5番（岩村勝弘君） それでは、再質問の形を大きな1点と2点とに分けて、最初に大きな問題の第1点からお話をお伺いいたしたいと思います。

上下水道については、大変御努力されている点がわかりました。引き続いて、この上下水道の問題が海の汚染、そういうようなことに関連していきますので、今後とも下水道については計画的に市民のために御努力願いたいと思っています。

次に、関連質問でございますけれども、先ほど、本年度は土木費を21億3,194万8,000円と計上し、前年度より4,703万円の予算増として計上されたわけですが、この予算増に対して私どもは市政が土木に対し積極的に働きかけていこうということがうかがえたわけでございます。しかし、先ほどもお答えをいただいたわけでございますけれども、市民生活の一番身近な私道舗装要綱による舗装問題については、3点から優先順位を決めていくというようなことをお聞きいたしましたけれども、館山市道の舗装化がたしか62年度で90%を超えたので、私道についても要綱を定めて舗装化を考えたように伺っておりました。そこで、昨年度のこの要綱による私道を舗装化した実績——執行率といいますか、実績はどのくらいでございましたでしょうか。本年度はこの私道舗装に予算が320万円と記憶しておりますが、本年度申請されている件数とその場所はどうなっておりますか、まず私道舗装についてお伺いするわけでございます。

次に、道路側溝の問題でございますけれども——さっき3点というのは側溝を優先順位を決めて行うということをお伺いいたしましたが、この道路側溝については、私どもこのような道路側溝で今市長さんが言われている本当の文化都市なんだろうかという疑問を日常生活持っておるわけでございます。と申しますのは、流れないで常に水が残り、悪臭を放っております。夏を迎えるに不衛生きわまりないのであります。最も悪いところはその側溝すらありません。たれ流しの状態です。今度このような文化住宅街を市長さん、一度御視察を願いたいと思っております。市長さんが御多忙でしたら部長さんでもいかがでしょうか。海洋性リゾートタウン、しかも高質なものを

考える都市としては、天国と地獄をつくってはならないと思うのです。文化はあまねく人に、それに場所に恩恵を与えてください。

次に、第3点の生活道の問題でございますけれども、昨年度の原材料支給について、例年予算の過不足はどういう状況でしょうか、本年度はどのくらい申請場所があって、それにどう対応されるのかお伺いいたします。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず、第1点の私道の昨年度の舗装化の実績ということでございますが、ただいま資料が手元にはございませんので、後ほどお答えをいたしたいと思えます。

次の第2点目の側溝の関係でございますが、道路側溝の調査といたしましては、内部で独自に何といたしましょうか、市内の道路側溝を調査したものと、それからそれに加えて地域住民の方々からいろいろ要望があったこと等々につきまして調査をいたしました。その結果でございますが、これは旧市とそれから富崎地区でございますが、これらについては調査が終わりまして、大体約2万4,000メートルということでございます。それに大きな道路等でございますと大体両側側溝がつくという形になるわけでございますが、おおむねその1.5倍というようなことで考えておるわけでございますが、合計いたしますと3万6,000メートルぐらい。それから、そのほかに西岬外4地域があるわけでございますが、この部分が、現在どうしても側溝が必要だと思われる部分が約5.4キロメートルぐらいあるわけでございます。これは住民の方から何といたしますか、住民の方の尺度と、また役所側の尺度と若干違う面もあるかと存じますが、そのくらいを考えております。合計いたしますと4万1,400メートルというように考えております。これを今年度ベースで一応整備したならばどれぐらいかかるかということでちょっと試算をしてみますと、約8年ぐらいを要するのではないかというように現在考えているわけでございます。

いずれにいたしましても、関連の道路関係もございますし、いろいろある中でやはりそれぐらいの仕事が残っておるということで、これからやはりそ

の緊急度に応じまして整備を進めていかなければならないというように考えているわけでございます。

それから、生活道の関連でございますが、生活道につきましては昨年度八幡地先を — 八幡の第2区道路舗装整備組合というところのものを実施したわけでございますが、それ以外に現在ぜひ進めたいけどもどうだろうかということで、意向打診といいたいでしょうか、どのようにしたらいいのかということで役所の方に相談に参っている団地が3つほどございます。このうち1件につきましては、内容等も進んでおりまして、本年度実施ができるかというようなことで考えております。そのほかの2団地につきましても、団地側の準備が整い次第、またこれが年度内の予算で間に合えば補正等をお願いすることも考えております。それ以外にもやはり10団体ぐらい — 10団地ぐらい可能性のあるところというようなものがございます。そんなところが私の方で現在つかんでおるところでございます。以上です。

それから、材料支給の関係でございますが、生活道及び排水整備の原材料の交付の状況、これは市内全地域に分かれておりまして、いわゆる生コンを44回ほど支出しております。それから、U字溝の関係といいたいでしょうか、U字溝類が23回、碎石が56回ということで、碎石につきましては、道路が悪くなりますと同じ年度で2回支出したというようなものもございますが、そういうようなことで、合計いたしますと56回ということで、なおその整備の延長でございますが、生コンクリートで生活道路を整備したものは合計いたしますと3,420平方メートルほどございます。それから、U字溝の関係でございますが、1,094メートルを整備してございます。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 岩村勝弘君。

◎5番（岩村勝弘君） 大変御努力はなさっておるようでございますけれども、いわゆる道路側溝の問題、側溝の問題、これはあと8年ぐらいの歳月を使って整備していきたいと、そういう長期的なものであるということにお聞きしたわけでございますけれども、この道路側溝については、既に困っている地域はもう過去十何年来、例えば私のアンケートをとった八幡、鶴ヶ谷と

か三軒町では十何年来もう全然側溝をさわっていないんですよ。それで今後8年間 — その8年間のうちにはきっとあれするでしょうけれども、そういうようなことについて非常に困っているという状況をお察し願いたいと思います。

それから私道舗装、これは去年八幡がこの私道舗装化です。生活道じゃなくて、要綱による私道舗装で八幡がやってもらったわけです。それで、昨年度は八幡以外にやっていますかと言ったら、もう実績率は八幡のそこをやってくれた1カ所、1件、それで私道の要綱による舗装化は1件だったんです。それで、本年度どのくらいありますかと言ったときに、1件今上野原が決定していると、そのうち1件と言いました。あと2件ぐらいあると。しかし、これは昨年度1件、本年度1件、恐らくそういうような状態になるんじゃないかと思うんです。というのは、これはほかにも10件乃至何十件かこの件数があるというようにお答え願ったわけですが、私はこの私道舗装化については、そういう件数があっても10件というこの姿勢、これを緩和する考え方があるかどうか。私はこれを緩和をしていただければ、恐らく毎年1件か2件、10年たって20カ所か10カ所 — 10年たってですよ、そのくらいの進捗率じゃないかというように思うわけです。ですから、この市道舗装化についての要綱規制を緩和する意思はございますかということをお伺いしたい。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 私道舗装化の一つの基準でございます家屋が10世帯ですか、10軒連檐してあるもの、これを引き下げる考えはないかというような御意見だと思いますが、現状でも十二、三件の予想されるものがあるわけございまして、また確かにそういう事情もわかるわけございまして、まだスタートしたばかりでございまして、いま少しこれを進めさせていただいて、そしてある程度仕事が進んできた段階で、目安がついてきた段階でそういうこともあわせて検討していきたいというように思います。

よろしく願います。

◎議長（飯田義男君） 岩村勝弘君。

◎5番（岩村勝弘君） よくわかったというようなことだとちょっとあれですけれども、そういう方向でひとつ御努力願いたいと思います。よろしくお願いします。

次に、大きな問題の第2点、リゾート問題について、まず第1点の期待と不安についてということでございますけれども、私たちはこの調査した結果では、一般の市民たちは自然を大切にする都市ということを願っているわけで、自然破壊がされるだろうという、そういうような不安もあるんですけれども、私はそういう不安について、現在水をかける意味ではございませんけれども、例えばこの間読売新聞の5月24日付の報道だと、例えばマリーナの件で、県都市公社管理の浦安マリーナでは保管料の改定について話し合いが難航しているというような新聞記事が出ていたわけでございます。ですから、運営の面でも絶対大丈夫なんだというようなことが言えるかどうか、また私たちのこういうマリーナのことにしても運営上の問題で出るんじゃないかと、そういうような懸念があるわけです。この浦安のちなみに基準としているのは、1フィート年額2万円、それで24フィートのいわゆるヨットが標準型、普及型である、そうすると年間48万 3,000円だそうでございます。そういうような、こちらに来る人たちは高質な人たちだから、そういう年間48万円ぐらいのことは気にするものじゃないというようなことが考えられるのかもしれないけれども、そういう運営上の問題はどうか。

次に、自然公園、国定公園であったから自然が残されていたのに、その自然が今度のリゾート法で緩和の方向に向かったため、質、公園がレジャーになる、量、面積が10%程度、ともに歯どめが必要ではないか。これは自然環境保全審議会小委員会のそのレポートの中に出されていた箇所でございます。また、今の計画では高質性というが、せいぜい二、三泊で、長期保養型ではあり得ないというようなこともその小委員会では報告がなされております。

次に、東洋大学の坂田先生が日本人はイベントというイベント、各種の博覧会がことしもメジロ押しに開催されているわけでございますけれども、またリゾートというリゾートと一斉に同じ方向に走り出す。バカンスも21世紀までの10年余りの間に日本は欧米のように、年に三、四週間のバカンス

をとるようにはとてもならないだろう。また、現在リゾート関係プロジェクトは総投資額20兆円、需要見通しは5兆円で、4分の3は成り立たないだろう。これは前田ラック研究所長の言葉と坂田先生のリゾート問題、経営的な考え方もリゾートには必要じゃないかというような点について出されていたわけでございます。大リゾート地が30、40できて成り立つかどうか疑問である。我がウェルネスファミリーリゾート館山はこのサバイバル作戦に生き残れる4分の1に入るでしょうか。その点を含めて、私は先ほど申し上げましたいわゆる企業のフィージビリティースタディーをどのように考えて、採算性を考えてここにこられたかということも、我々住民サイドに立ってそういうこととお話し願いたいというような意味で申したわけでございます。それで、ある学者さんはリゾート地では沖縄と北海道が残れるだろう、最終的には沖縄と北海道だろうと。その北海道はカナダと、沖縄はオーストラリアの海岸と競合することは必至であるというようなことを申されておりました。

それから、期待される雇用面についてお答え願いたいんですけれども、高質性のホテルがあればあるほど、人材も相当の教養のある者でなければならないと思うんです。それで、例えば北海道の佐幌のバカンス村では、パリに本部のある地中海クラブのジェントルオーガナイザーが64名常駐しているそうでございます。そういうようなことから考えると、雇用面についても先ほど何千名——何名と申しましたか、何か何千名ということがお答え願ったわけでございますけれども、恐らく地元の者はアルバイト的なもので、いわゆる正社員になり得ないんじゃないかと、そういうことを考えたときに、私は人材養成という意味で、高校にリゾート科とか専門学校の誘致とか、そういうような対応はなさらないのかどうか、その点をお聞きしたいのであります。何か計画ではスポーツ指導者の養成計画はあるようでございますけれども、そういうような運営面での人材を養成しなければならない、また地区住民全体がそれに呼応しなければならないということをリゾート地では考えなければならないのですけれども、さしあたってそれに当たる人材の養成についてはいかがなものでございましょうか。

まとめの質問として、関連することは、先ほど行われた南欧視察をごく簡

単に参考になった点をお教え願いたいと思います。

最後に、長時間にわたりまして今再質問したわけでございますけれども、いろいろお答えをお聞きしながら、私は天谷直弘先生、通産省の審議官をやり、現在電通の総研所長をやっている天谷直弘先生は、リゾートとは簡単に言うと極楽なんだ、極楽づくりである。なるほどな、極楽をつくることなんだ。昔宗教的なことであったけれども、現在はその極楽をつくることなんだ、ですから極楽へ行っていろいろなことを、世間の浮世を離れてああいいなというようなゆっくりとした気分、いわゆる極楽である、そう申されておりました。

そして、最後には究極は何をおいても人であると思います。人間であると思います。そういう人間を大切にし、また市長さんの言われるそういうような究極、来てくださる方々に接するのは人であり、幾ら施設がよくても人がよくなければなりません。そういうことを願って、御答弁を簡潔にひとつお願いいたします。時間が来たようでございます。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ただいまの御質問は、第1点が高質なホテルがたくさんできるであろうと、これについての雇用される人材育成ということで、高校とかそういうところで育成機関を設ける考えはないかということでございますが、これにつきましてやはりある面ではそういう必要性もあるかなという感じがするわけですが、ただこういう専門的な勉強の機関、教育の機関というようなものは、既に大学等でもございますし、またここに進出する企業そのものがそれなりの自分の会社に合った教育、そういうものをするわけでございますので、果たしてそれが必要なということが1点と、一たん就職いたしますとかなり長期間にわたって就職すると、続けて職についているという人が多いわけでございます。例えば、3年なり5年なりいたからその人がもうやめてしまってあと人がないんだ、その後の教育だということになればこれはまた別でございますが、ある程度そういう専門的な方々はそれなりに長期間やはり滞在するということ、そこに就職するということが一般的であると思いますので、その辺についてはどうかなということで私は考

えております。

また、南欧の視察に行ったけども、参考になる点はないかというようなことでございますが、これは行った職員から私聞いておるわけでございますが、いわゆる南欧のリゾート地では屋外広告物の規制やら、あるいは電線の地中化、あるいは建物の色彩の統一とか、それからリゾート地としての景観形成の上で大変参考になったというようなことを伺っております。そのほか、人間によりつくり上げられ、そして管理された緑といえましょうか、自然環境というものが大変必要だなということで強く感じたということを聞いております。そのほか、各地域がそれぞれの実態に即した手法によって特色のある海洋性リゾート地の形成を図っていく必要があるという、それからそのほかにリゾート開発に当たって今までの経済力の弱かった地域が大変力がついてきて、イメージアップにつながってきているというようなことを伺っております。なお、詳細につきましては現在取りまとめ中でございまして、もう少し待ちますと皆様に発表できるようなことになろうかと思います。

それからあと一点、館山のリゾートとしての特色ということで、やはり今まで考えておった本市の持つ花のイメージとか暖かいイメージとかマリンスポーツの関係だとか、こういったものをやはり主体としてリゾート開発することがいいんじゃないかということで、強く感銘を受けたということを伺っております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 以上で岩村勝弘君の質問を終わります。

次に、2番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2番議員永井龍平君登壇）

◎2番（永井龍平君） さきに通告してございます4点について御質問いたします。

まず、第1に消費税の公共料金への転嫁の撤廃について、第2に図書館の内容と利用の充実について、第3に城山公園内のくじゃく園の整備について、第4に高齢者の在宅福祉について、以上4点にわたり順次御質問申し上げます。

まず、第1に消費税の公共料金転嫁の撤廃について質問いたします。平成元年4月1日より消費税がスタートして約2カ月半が経過いたしました。この間、私は多くの方から消費税に対する厳しい怒りの声を聞き、この消費税がいかに一般庶民の生活を圧迫しているかを実感し、ますますこの消費税廃止への闘いを強めなければと痛感しております。

私はあるお年寄りの方と懇談をいたしました。その方は声を震わせて、身体障害者の息子と2人暮らしで今まで年金でようやく生活してきたのに、衣食料品、借家の家賃、生活必需品等すべて値上がりしてしまい、どうして食べていけるのか、今の政治に対して怒りをぶつきたい、戦争で苦勞して、今働けなくなってからなぜ生活にすべて税金なのかと話され、またある主婦の方は、消費税が1カ月で5,000円も出てしまった、1年間ではどんなに大きな金額になるのか考えると買い物に行くのも怖くなると悲鳴を上げておりました。

この消費税の導入については、当市では3月議会において水道、し尿くみ取り、鳩山荘の公共料金に消費税転嫁の条例改正案が提案されましたが、いずれの議案も継続審議となり、今6月議会で再審議することになっております。

私はこの消費税の導入については、国で決定した法律であるから市として実施するのは当然という市当局の態度は納得できません。それはなぜかといえば、地方自治体の公共料金には大別して二通りの料金があり、その一つは政策料金であり、これは製造原価または仕入れ原価に付加価値をプラスして販売価格料金を決定するものではありません。この種の公共料金は消費税を転嫁し、徴収しても国家への納付義務は免除されますので、消費税相当額は差益として残ることになります。したがって、消費税を転嫁しなくとも消費税法違反として市長が告発されることにはならないと思います。

第2には、水道料金に代表される公営企業の料金があります。公営企業の料金は公共の福祉と採算性の双方を重視して常に経営の合理化に努め、できる限り低料金で住民福祉に寄与するものでなくてはなりません。これらの料金に係る消費税は公課費として国家に納付する義務があります。ただし、内

税として消費税相当分を経営の合理化で吸収し、実質的には上乗せしないで公共の福祉優先という市長の政策判断としても何ら問題はないと思います。

一方、地方議会が政党政治ではなく住民自治であることから、住民の福祉に逆行するような政策が提案された場合、これを厳しくチェックするのは当然のことであると思います。

この水道事業の公営企業料金については、大変だとは思いますが、徹底した経営の合理化をさらに進め、消費税の転嫁をしない方向で検討していくことが本来の福祉の姿ではないかと考えますが、市長の御見解をお聞かせを願います。

次に、図書館についてでございますが、当市にあります市立図書館は昭和47年に創設され、既に17年の歴史を持っております。また、移動図書館車が設置されたのは昭和60年と聞いております。その間、この図書館の活用が市民に与えた知識や読書の楽しみを考えると、多大な実績があるものと私は考えます。そして、今後も時代の趨勢とともに限りなく文化的知識と、そして今後も時代の趨勢とともにその視野を市民に供給して、市民に親しまれる図書館としての使命を果たしていただきたいと願うものであります。

さて、最近は図書の形態もさまざまに多様化してきております。幼児を対象とした本では、ページを開くとかいてある絵が立体的になる立体本や、テープレコーダーを使用するカセット本まで出版されております。これは今までの単に読む本から目で見ると、耳で聞く本というように読者のニーズも多様化してきている現状を示すものでございます。このような読者の需要に対して当局としてはどのように対処なさっているかという観点から私は質問いたしたいと思います。

まず、第1点の図書館利用の現状についてどうかという質問であります。利用数の傾向はどのようになっておりますか。また年齢別、性別に見ますといかがでしょうか、移動図書館を含めて御説明をお願いいたします。この利用数につきましては、若い人たちは文字離れの傾向が増加しているようにも思いますが、これについては若い人たちも十分魅力のある図書の選定も大事でありましょうし、こうした種類の図書の数についてもよく検討をする必

要もあるのではないかと考えます。

次に、カセット本の設置はできないかという質問であります。現在はヘッドホンつきのカセットレコーダーが若者の間にも、また中年のサラリーマンにも流行している時代であります。また、ながら族という言葉が示すように、家庭での主婦が家事をしながら、内職をしながらカセットテープ本で読書ができる、また身体障害者の方たち、特に視覚障害者、眼精疲労の強い方、強度の近視眼の方たちには活字が苦手であり、テープを聞くのが唯一の楽しみという方たちもおります。こうしたテープ活用時代に対応して、各文庫本の会社が販売を始めているのが日本文学のカセットテープ本でございます。例えば、森鷗外の「舞姫」であるとか、ドナルドキーン氏の「私と源氏物語」とか、小説ばかりでなく、各種有名人の講演のテープもあるようでございます。そこで、当市の図書館にもカセットブックコーナーを設けて貸し出しをしたらよいと思いますが、この点について当局のお考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

次に、廃本の処理はどのようにしているかという質問でございます。現在の蔵書数は約7万冊であると同っております。種類別に見ますと、文学の1万6,079冊のほかに合計13種別の蔵書があるようでございます。そこで、これらの本のうち廃本になるものもあると考えますが、廃本になる本で欲しい人がいたら無料で分けてあげるという制度ができないものか。表装等が多少傷んでいても、廃棄処分するならそのような方法をとったらよいかと考えますが、この点についていかがお考えでしょうか、お答え願ひたいと思ひます。

次に、城山公園内にある施設でありますくじゃく園の整備について御質問いたします。城山公園は、鏡ヶ浦湾とともに当市の観光のシンボルであると同時に、当市を代表する顔というべき役割を果たしております。館山市を訪れた人々が一様に印象を受けるのがあの夕やみの空にくっきり浮かぶ館山城の雄姿であり、そこに館山市の象徴と発展を感じるのであります。

さて、この館山城を中心とした公園には、主な施設として博物館本館、分館、梅園、万葉の径、彫刻の径、くじゃく園、児童遊園地、芝生広場、駐車場が整備され、また本年度には茶室と日本庭園の完成をもち、城山公園の整

備計画も完了すると伺っております。この城山の高台に立って一望した風景は、四方はもちろん、殊に館山湾の風景はまさにすばらしい眺めであり、人びとを満足せしめております。現在ではこの城山公園も市民の方に親しまれ、人気を呼び、市内外を問わず数多くの人たちがここを訪れておるのでございます。

さて、私の今回の質問は、この公園内にありますくじゃく園内の整備についてであります。このくじゃく園にはクジャク、猿、白鳥、カモ、その他小動物が飼育されており、これはクジャクを中心とした小動物園としての性格を持ち、来園者を楽しませようという目的を持って運営されているものです。私はここを訪れた市民の方にこのくじゃく園の整備を考えたらどうかとの相談を受けました。私は早速くじゃく園に行き、同園を見て回りました。うっそうとした樹木に覆われた昼なお暗し箇所も多くあり、非常に感じの悪い印象も受けました。確かに自然的に樹木を繁茂させていくことにはそれなりの考え方があろうかと思いますが、しかしもう少し明るい雰囲気醸し出す樹木の植え方、配置、剪定等をして、来園者が心行くまで小動物を観察できる環境づくりをしていただきたいと思います。

入園者の方々から意見を聞き、まとめてみますと、園内の多過ぎる樹木を整理、植えかえ、剪定をして園内の美化を図ったらどうか、一つ、一部小動物のおりの老朽化の改善と、細かいメッシュの金網の重ね合わせで中の動物が観察しにくい、動物のおりのラベル、日本名、学名、英語名、目名、科名、原産地名等を明記し、各おりに表示をする、園内のコースを回る順序がわかる案内板を設置したらどうか、園内のコースが雨上がりなどで道悪などにならないよう改善する等でございます。そこで、これらの点について市ではどのように考えますか、御答弁を賜りたいと思います。

最後に、高齢化社会に関する在宅福祉施策について御質問いたします。本年、県公明党婦人局による高齢化社会に関する意識調査を実施いたしました。アンケートでは、1、高齢化社会のイメージ、2、高齢者の健康、3、高齢者の暮らし向き、4、雇用と生きがい、5、高齢化社会の福祉のあり方や行政に対する要望と、5つのテーマを基本に22の項目にわたって質問いた

しました。今回の調査の特徴は、調査の対象年齢を40歳代に絞ったこと、現在家庭にあっては実際に高齢者を抱えている人が多い上、21世紀初頭の高齢化のピークと言われる時代に、自分たちが高齢者になる最も高齢化問題を切実に実感できる世代だからとの理由で実施をいたしました。

その結果、国民の高齢化社会に対する関心は86%と極めて高く、その暮らし向きについては、「現在より暮らしにくくなる」が6割を超える反面、「暮らしやすくなる」と希望を持っている人はわずかに7%で、高齢者生活に不安を持っている人の多いことが改めて浮き彫りになりました。

高齢者の健康問題では、「寝たきりになったときどのような世話、介護を望むのか」に対しては、自分が介護されると家族を介護するの立場の違いに若干の差があるものの、自分が家族を介護する場合は家庭で世話をするとしておりますが、自分が介護される場合は施設で介護を望む声も大変多く、つまり心の中では家庭による介護を希望しつつも、できる限り家族に迷惑をかけたくないという遠慮、思いやりといったものがうかがえます。

「あなたは子供さんとの同居についてはどうお考えですか」の問いには、一緒に住みたい、近くに住みたいが8割以上を占め、一緒に住みたくないは5%にすぎなかった。また、生活費については親が努力し、不足分は子供が負担するが半数を超え、親が自らの責任で賄っていくを含めると8割で、ここでもできるだけ子供に迷惑をかけたくないという親の思いがうかがえます。

人生80年時代を迎えた今、雇用と生きがい対策は極めて重要な課題であります。そこで、「何歳まで働きたいか」の質問では、男性の42.3%が65歳前後と回答、給与所得者では約半数と勤労意欲の高さを見せ、定年制や年金支給開始年齢の問題に関して一つの示唆を与えるものとなりました。

それでは、「高齢化社会に対し国や自治体に福祉行政その他で何を望んでいるか」では、男女ともに圧倒的に年金の充実64.7%であり、以下順位に差はあっても、高齢者の雇用の確保、老人医療、保険外負担の軽減、寝たきりや痴呆性高齢者のための施設の充実、高齢者が利用しやすい文化、スポーツ、福祉施設の設置などの意見がありました。

以上、アンケートの結果を紹介いたしました。この調査を分析しておわ

かりのように、急ピッチで進む高齢化社会に対して種々の早急なる対応施策が重要であると思います。

そこで、質問いたしますが、在宅福祉の3本柱でありますホームヘルプサービス、ショートステイ事業についてであります。ホームヘルプサービスは、体が弱くなった高齢者ができる限り在宅で生活するためにはなくてはならない事業でございます。ホームヘルパーの行うサービスは、食事の世話、衣類の洗濯、繕い、掃除、身の回りの世話、買い物、通院等のサービスをすることでございます。また、ショートステイは在宅老人短期保護のことで、寝たきり老人などを介護している家族が病気、出産、冠婚葬祭、また事故、火災など社会的理由のほか、家族の都合による休養、旅行等の私的な理由など、一時的に世話ができなくなったときに老人ホームに短期間、原則として7日以内預かってもらう制度でございます。これら的高齢者のための在宅福祉事業の実施状況はどのようになっておるのか、お伺いをいたします。

次に、お年寄りの在宅デイ・サービス事業について御質問いたします。この事業は、在宅で生活している体の弱い高齢者や寝たきり的高齢者を送迎用のリフトバスなどを使ってデイ・サービスセンターに通所させ、またはその家族を訪問し、入浴サービスや食事サービスなどを提供するもので、お年寄りの福祉を高めるとともに、介護する家族の負担を軽くすることを目的としております。そのサービスの内容は、基本事業としては生活指導、日常動作訓練、養護家族介護教室、健康チェック、送迎のほか、通所事業、訪問事業としては入浴サービス、給食サービス、洗濯サービスなどを行います。お年寄りの健康増進と社会的孤立感の融和、それにさらに家庭介護負担の軽減を図るためにも、当市もぜひこのデイ・サービス事業を実施していただきたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 永井議員の御質問にお答えをいたします。

まず、大きな第1点、消費税の公共料金転嫁の撤廃についてでございますが、消費税は既に4月1日から法律が適用されまして、地方公共団体が行う財貨、サービスの提供等についても原則として課税対象となるため、市といったしましても使用料、手数料等の見直しを行うことが必要であることは御承知のとおりでございます。消費税法に基づき、将来の経営状況を踏まえながら適正な転嫁に努めてまいりたいと考えているところでございます。

なお、消費税につきましては、地方財政計画におきましても、一連の税制改革に伴う所要の財源として消費譲与税や地方交付税として歳入に計上されているところでございます。

また、この消費税は地方公共団体の行う事業についても課税されるため、もし使用料、手数料等に転嫁を行わないとすれば、本来サービスの受益者である市民が負担すべき消費税を市民の税金で支払う、つまり受益者以外の市民が負担することになりますので、公平な負担という見地からも実施することが必要であるものと考えております。御理解を賜りたいと存じます。

各事業の経営につきましては、公営企業経営者の基本原則を踏まえ、今後とも経営の合理化等経済性の発揮に努めてまいりたいと考えております。

大きな第2点は、教育長から御答弁いたします。

大きな第3点、城山公園内のくじゃく園の整備でございますが、城山公園の施設整備は昭和56年度から年次計画により整備が進められ、本年度の茶室、日本庭園の築造により新規の施設整備は一応完了と考えております。また、既存の設備につきましても、見直しを含めて再整備計画を策定し、次年度以降順次進めていく考えであり、くじゃく園もおり等の改築、改善、案内標示等園内全般について検討してまいります。植栽につきましては、公園全体の現況を把握し、四季の花が見られるように新規の植栽をあわせ、配植を考えております。また、管理は自然との調和、周辺環境との整合を図りながら、来園者の要望に応えられるよう管理手法について検討してまいります。

次に、大きな第4点、高齢者の在宅福祉についてでございますが、高齢者の在宅福祉について、在宅福祉の3本柱でありますホームヘルパー、ショートステイの現在の実施状況はという御質問でございますが、ホームヘルパー

の派遣状況は、老人家庭39人、身体障害者家庭7人の対象者を個々の状況に応じて週1回から4回訪問しております。ヘルパーの人員につきましては、昭和63年度3人、平成元年度1人を採用し、現在9人のヘルパーで対応しているところでございます。

ショートステイにつきましては、館山特別養護老人ホーム、館山養護老人ホームと契約をいたしまして、寝たきり老人は7日以内、痴呆性老人は30日以内の範囲で実施しているものでございまして、昭和63年度の実施状況は、寝たきり老人は実人員2人、延べ日数16日、痴呆性老人は実人員6人、延べ日数219日でございます。

次に、デイ・サービス事業でございますが、現在デイ・サービスセンターを利用したサービスは実施しておりませんが、館山特別養護老人ホーム、館山養護老人ホームと委託契約を結びショートステイを実施しているのを初め、デイ・サービスセンターの仕事とされております入浴サービスについては、移動入浴車にて居宅入浴を看護婦1人、入浴ヘルパー2人、運転手1人のスタッフにて市単独事業として週3回実施しております。

給食サービスについては、館山市社会福祉協議会におきまして月2回、29人の老人を対象に実施しております。

在宅の独居老人、寝たきり老人につきましては、ホームヘルパーの訪問援護、また保健婦の訪問による介護に関する指導を実施しております。

以上、国の定めるデイ・サービスに関しては、個々の種目についてそれぞれの事業で対応している状況でございます。

デイ・サービスセンターの設置につきましては、施設の問題や生活指導員、寮母、運転手、看護婦、調理員等の職員の問題もあり、現在施設長と協議しており、今後広域的に設置の方向で検討をしてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 図書館の問題につきましてお答えいたします。

小さな1点目の図書館の利用状況についてどうかという御質問でございます

が、昭和63年度の図書貸し出し冊数は9万 604冊で、その内訳としまして、図書館での貸し出しは6万 7,331冊、移動図書館での貸し出しは2万 3,273冊となっております。前年度との対比では 701冊、率で 0.8%の増加となっております。

また、図書利用者の状況でございますが、利用登録者は 6,667人で、そのうち男性が 2,733人、率で41.0%、女性 3,934人で率で59.0%でございます。年齢別で多い順から申しますと、6歳から12歳が 3,080人、率で46.2%、31歳から40歳が 998人、率で15.0%、41歳から50歳が 431人、率で 6.5%、以下61歳以上、ゼロ歳から5歳、21歳から30歳、13歳から15歳、16歳から20歳、51歳から60歳の順となっております。

次に、小さな2点目のカセット本の設置をしたらどうかとの御質問でございますが、毎年 5,000冊から 6,000冊程度の図書を補充し、内容充実を図っておりますが、御質問のカセット本につきましても、今後視覚障害者等のニーズに応じて購入も考慮してまいりたいと考えております。

次に、小さな3点目の廃棄本を市民に無料で分けてあげたらどうかとの御質問でございますが、図書館で所有する図書は常に点検を行い、補修を必要とする図書は職員の手で補修をして、保存に細心の注意を払っております。御質問の廃棄本でございますが、63年度において約 200冊程度廃棄処分を行いましたが、処分した図書は破損、落丁が著しく、使用できない状態でありますので、市民に払い下げることは適当ではない、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） まず、消費税の問題についてでございますが、現在各種団体、新聞等でアンケートを行って発表しておりますけれども、国民の約95%以上の方が反対の意見としております。当市においても水道、し尿くみ取り、鳩山荘等の料金転嫁についての条例改正案が3月議会に提案されて、議会、委員会で十分論議されました。結局継続審議となり、今議会で審議される運びとなっておりますが、今議会ではどのような結論になるか予測はできませんが、さきに申し述べましたように、市民の消費税に反対する切実な

声を代表いたしまして、消費税の廃止を声を大にいたしまして主張し、この質問は打ち切ります。

次に、図書館の問題についてでございますけれども、昭和63年度の図書貸し出し数が9万 604冊との御説明でございますけれども、この利用率は他市と比較してどうでありますでしょうか。

次に、昭和63年度の貸し出し数によりますと、図書館の貸し出し数が6万 7,331冊、移動図書館が2万 3,273冊であるとの御説明であります。移動図書館車の利用者がこの数字を見てまいりますとちょっと少ないように思いますが、この点いかがでありますでしょうか。

また、最近図書離れの傾向があると伺っております。平成5年には10万冊の蔵書となり、図書館の内容の充実が図られることになってまいります。移動図書館の利用者についてはいつも特定の利用者が多いようでございます。移動図書館の活動、活用価値を最大限に生かし、新たな利用者を拡大する対策はどのように考えておられるのか、お伺いをいたします。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 他市と比較して少し利用実績が少ないんじゃないかというような御質問でございますけれども、そのとおりでございます。現在のところ人口1人当たり県内の平均貸し出し冊数を見ますと3.33冊、館山市は1.63冊となっております。若干平均を下回っております。27市のうち――市原市は図書館ございませんので、27市を比較しますと、下から数えて18番目でございますので、下から数えた方が早いという状況で、非常に残念に思っておりますが、今後は我々もできるだけ購入いたしました図書のPRにこれ努めまして、そしてできるだけサービスに努めまして利用されるよう努力いたしたいと、こう考えております。

また、移動図書館の実績が余りよくないんじゃないかというような御批判でございますけれども、移動図書館の貸し出し冊数の割合で見ますと館山市は26.8%でございます。移動図書館車がございまして18市中多い方から5番目になっておりまして、比較的私の方といたしましては移動図書館車は活動していると、このように考えております。今後移動図書館車の活用を図ろう

とすれば、現在小学校に月に一度しかお伺いいたしておりませんので、これを2回にすればどうかという1点、それからもう一点、移動図書館車がお伺いします場所によりまして非常に利用者数が少ないところがございますので、この地域につきましても検討いたしまして、利用者の多い方に重点的に伺いするようにしたらどうかと、こう考えております。貴重な移動図書館車でございますので、今後とも努力いたしましてその利用率を向上させたいと、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 理解いたしました。移動図書館車の利用率は多いと、全体的には図書の利用率がちょっと少ない、人口1人当たり1.63、少ない、利用率の向上をしていくよう努力をしていっていただきたいと思います。

カセット本の設置についてであります、図書館だよりをちょっと読みますと、福原教育長は「図書の購入に当たっては細心の注意を払い、市民の皆様方の読書傾向を推察しつつ、新刊案内等の出版情報誌や新聞紙上に紹介される新刊本、その他の出版情報に注意しながら、ある特殊な部分に偏らないようにして購入しております」と、このようにお話しされておりますが、教育長もお聞きになったと思いますが、NHKの午前11時過ぎのラジオ小説の「私の本棚」という番組がずっと長く何十年も放送が続いて大好評でございます。その好評の便りの紹介が寄せられますが、入院中の患者さんだとか、家事の主婦の方だとか、内職をしている方だとか、また車のドライバーであるとか、さまざまな方が聞いて好評を博しております。御答弁によりますと、視覚障害者等のニーズに応じて購入も考慮してまいるとのことでございますが、ぜひこの施策についてはその実現に向けて努力していただきたい、このことを要望いたします。図書館については以上でございます。

くじゃく園の整備については、市長の答弁で次年度より順次整備を進めてまいるとのお答えでございます。平成2年より工事を進めて、順次進めていくというふうに理解いたします。入園者が憩える快適なくじゃく園にしたいことをお願いいたします。くじゃく園の問題も以上でございます。

最後に、高齢者の在宅福祉についてお伺いいたしますが、昭和62年12月に私、老人福祉について質問しておりますが、このときに御質問しまして、現在寝たきり老人の方が102人おられるようでございますが、ショートステイについてでございますけれども、御説明によりますと、昭和63年では寝たきり老人は実人員が2名、延べ日数16日、痴呆性老人は実人員6名、延べ日数219日と御説明がありました。このショートステイの利用対象者が大変少ないように思いますが、これは何か原因があるのか、またこの掌握についてはどのような方法で行っておりますか、ひとつこの点についてお伺いをいたします。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） ショートステイの利用者が少ないということで、その掌握をどのように行っているかということでございますが、確かに御指摘のように現在の実績からいきますと少ないと思われるわけでございますが、この周知につきましては、福祉のしおりの配布、あるいはケースワーカー、ホームヘルパー、保健婦のそれぞれの訪問時、さらには民生委員の皆さん方をお願いして周知を図っているところでございますが、やはり施設へ入れるということについての抵抗、地域的なまだ問題があるためにこのように少なくなっているのではないかと、今後しかしこれをさらに周知をしていきたいと、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） わかりました。近所の手前とかいろんな事情で、無理して親戚の方やいろんな方を頼んでショートステイに入れずに済ませてしまうというようなことも考えられます。今御説明のあったようにいろんな方策を用いて、せっかくございますショートステイ制度でございますので、活用をしていただくようにひとつお願いいたします。

これに関連してですが、このショートステイの利用者の拡大、啓蒙にいたしましても、そういった田舎でございますのでそのようないろんな事情があると思いますけれども、いずれにいたしましてもこのホームヘルプサービス、

ショートステイサービスは高齢者のための大切な福祉事業でありますので、最善かつ有効なる利用者拡大の努力をしていただきたい、このように御要望いたします。

最後に、デイ・サービス事業についてでございますけれども、本市におけるデイ・サービスについては、その施設はありませんが、ホームヘルパー、ショートステイ等それぞれの事業で対応しているとのことでございますが、私の知っている鴨川の知人の家族に79歳のおばあちゃんがございます。いわゆるこのおばあちゃん動脈硬化と心臓病と、また重くはないんですけれども、いわゆるぼけがあります。身の回りのことはおおむね自分でできますが、物忘れがひどくなってきました、冷蔵庫にハンドバッグを入れたり、行動も少しおかしくなった。非常に頑固な方ですんで、長男の嫁との間もうまくいかない、痴呆の症状が進むに従って嫁さんもノイローゼぎみになる。老人ホームへの入所も考えましたが、当人も嫌がり、とりあえずデイ・サービスセンターに週2日通うことになったそうでございます。

初めは気も進まなかったおばあちゃんも、だんだんとなれて、同じような境遇の方、あるいは痴呆性の方たちと編み物をしたり歌を歌うなどのグループ活動に溶け込んで、センターにいる間は安定した状態になってまいった。一方、嫁さんの人間関係についてはどうかと申しますと、ソーシャルワーカーの助言を受けましたり、センターの介護教室に参加したり、痴呆性老人の理解や介護の仕方について勉強して理解をし、精神的にも大変楽になったと話しておりました。デイ・サービスセンターのこの施設の機能によって、お年寄りの福祉と介護者の精神的な援助の利益がこのようにあるわけでございます。

在宅福祉対策については、国は12年計画で拡充することで進めてまいりましたが、我が党の強い主張で3年間でホームヘルパーは2倍の5万人、ショートステイ施設は4倍の1万床、デイ・サービス施設は4倍の2,500カ所に拡充することになり、国や県もその方向で施設の充実に取り組んでまいらうとでございます。当市におかれましても、このデイ・サービス事業につきましては今後広域的に設置の方向で検討をしてまいるとの御答弁がございまし

たが、この事業の設置の実現を、一日も早く実現ができるよう要望いたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 以上で永井龍平君の質問を終わります。

午前中の会議はこれをもって休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時47分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（飯田義男君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、3番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3番議員田沢勝信君登壇）

◎3番（田沢勝信君） 私は、既に通告してあります5点にわたって御質問申し上げます。

まず、第1点目は消防団に対する市の予算支出についてでございます。市民の生命、財産を火災から守る消防団の任務は極めて重要なものでありますが、そういった認識から、当館山市消防団条例でも消防団員の責務に関して厳格に定めていることは申し上げるまでもございません。私がここに取り上げた点だいたいと思う点は、その消防団活動を支える市の消防団予算のあり方についてでございます。

市が支出する消防費、特に消防団への支出の主なものは、消防団団員報酬、あるいは団員の業務に関する費用弁償、団員の防火衣、作業服等の貸与費、消防団の装備費等でございます。ここで改めてこれらの予算について詳細に検討してみたいと思うわけですが、消防団員の報酬について、この報酬額は今年度引き上げられているわけですが、一般団員で年額2万8,000円、月額にいたしますと2,333円になります。次に、費用弁償、この費用弁償は市のあらゆる審議会、委員会の費用弁償に比べても極端に少ない額になっております。火災で出動し、現場業務についた場合で最高700円、その他日常訓練、火災予防、警戒業務、消防器具等の整備、これらの業務も不可欠な業務でございますが、この業務についた場合でも1回、あるいは1

日という部分がありますが、500円の費用弁償であります。非常勤消防団員といえども生業を持ち、あるいは出勤回数が少ないといえども、万が一の火災に備えて自らの行動に制限が加えられております。団員の報酬、費用弁償の現状の額は余りにも現実からかけ離れたものになっていないでしょうか。

そこで、具体的に質問いたしますが、団員の報酬、費用弁償、その他市費負担の考え方、あるいは基準はどのように考えられ、設定されてきたのか、お尋ねしたいと思います。

さらに、消防団活動を支える財政面への市の負担が極めて不十分なため、それを補うものとして各消防団の後援会の財政活動がございます。この消防団後援会の決算を拝見し、検討してみますと、何と多いところでは後援会費が消防団への市からの支出額の2倍を超えるところもございます。地域事情もあるかと思うわけですが、それにしても各後援会が消防団各部の運営費を30万、あるいは40万円と補助し、あまつさえ今日では団員の日常の消防活動等に伴う出勤手当、保険料、半長靴あるいは防寒ジャンパー等の必要不可欠なものでさえ、その整備が後援会予算に依存しているというありさまであります。

消防団には各地区の歴史があり、その活動条件を側面から補助している各消防団後援会の歴史と地域事情があり、ともに消防団活動を支えるために地域住民が協力と理解をし合い、活動していると思うのでありますが、少なくとも消防団共通の活動に伴う条件整備はこれらの後援会の財政事情に左右されず、共通に市費の負担で充実していくことが問われているのではないかと思うわけであります。

そこで、この際消防団員の報酬、費用弁償を現実に即したものに改善し、しかも消防団の組織活動、運営に伴う費用等は市費負担として抜本的に改善すべきと思うわけですが、市長に当たってはそのような考えがあるかどうか、お聞かせ願います。

次に、質問の第2点目として、市の都市計画道路3・4・3号船形川名線についてお伺いしたいと思います。これまで議会においても数度にわたって富浦方面から館山に向かう通過交通車両の船形地区、特に流山議員さんの付

近から港前バス停信号付近での交通渋滞の解消について質問がなされており  
ます。そのたびに市長さんは、対応策としてバイパスの供用によってこの交  
通渋滞は緩和されるという答弁をしまいいりました。しかし、このバイパス  
が供用されている現時点でも、この船形地区の交通渋滞は緩和されていると  
は決して言えません。

そもそも市の都市計画道の計画を見ても、バイパスの供用によっ  
て船形地区の交通渋滞を緩和できるものではなく、それがゆえに富浦方面か  
らの通過車両を東京都船形学園近くよりＪＲ船形駅変電所そばを通過して、川  
名岡を真っすぐに通ってバイパスに直結する都市計画道路３・４・３が計画  
され、しかも富浦方面から館山海岸方面へ向かう車両が通過できるために、  
現在の船形館山港線、この線を特に船形の職業訓練校前から船形小のそばを  
通って、先ほどの船形川名線に直結する都市計画道の設定をしたはずであり  
ます。

そこで、具体的に質問申し上げるわけではありますが、都市計画道船形川名  
線——いわゆる３・４・３号でございますが、この線の実現の見通し、さら  
に都市計画道船形館山港線のうち、先ほど申し上げました職業訓練校前から  
都市計画道船形川名線に直結する都市計画道路の実現の見通しについて明ら  
かにしていただきたいと思うわけであります。

次に、第３点目として、福祉作業所をより充実していただきたいという観  
点から御質問申し上げます。御承知のとおり、福祉作業所は精神障害者の社  
会生活訓練の場、職業参加のための訓練の場ではありますが、市長の進めてき  
た福祉諸施策のうちで、人間尊重を大事にする観点からいっても、光輝く施  
策のうちの１つであると言ってもよいかと思えます。県の福祉作業所設置の  
要綱を見ても、入所定員はたしか１９名だと思いましたが、当市の福祉作業所  
は現在の入所者が２３名、その施設についても３０名入所可能な施設にしま  
いりました。この施策について積極的な姿勢を持って取り組んできた市長の姿  
勢について評価するものでございます。この施策内容からいっても、入所者  
の日常生活活動の向上等その成果も大なるものがあるかと思う次第でありま  
す。養護学校を終えた途端、職業につけず自宅になすこともなく置かれたり、

あるいは施設に収容されるのみといった状況の中で、福祉作業所は人間の可能性を一つ一つ、個人に見合った諸教育を实践する場として充実が図られてきたわけであります。今日なおその充実を強く望む関係者の声は大でございます。

しかし、残念ながらその期待に沿う職員等の充実は、余りにも個人の努力、献身のみに任されており、この際福祉作業所の諸施策事業を数的にも内容的にも充実させていくためには、職員等の増員を図り充実させていく必要があるかと切に思うわけでございますが、この点について市長の前向きなお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、第4点目は消費税問題についてでございます。この消費税問題について、午前中の永井議員の論議もございました。3月議会で市長は、この消費税に関してでの悪い消費税という見解を示されたわけであります。水道料金、くみ取り料金、国民宿舎利用料金への消費税転嫁については当然との姿勢をとり続けてまいりました。しかし、議会はこの公共料金への消費税転嫁については賛成せず、継続審議になっていることは承知のとおりでございます。しかも、今日に至って各地方自治体では消費税の見直しあるいは廃止決議が方々でなされているのが現状でございます。その背景には、国民の8割以上が消費税に反対しているということがあるわけでございます。

市長は消費税について、これまで長期的には必要な税制度であり、しかし税のあるべき公平さ、簡易さの原則からいって、今日の消費税は公平さを求めれば簡易さに欠け、簡易さを求めれば公平さに欠ける、そういった面では簡易課税制度、免税点のあり方等での悪い消費税という見解を示されてきたわけでございます。

そもそも、自民党のいわゆるかつての一般消費税、あるいは売上税、そして今回の消費税制度そのものが公平と簡素を両立できるものではなく、そういった観点からも消費税は廃止を含めて再検討をしてしかるべきであります。市長にあっては、法で定められたものであるからできが悪くても公共料金に消費税を転嫁するという態度ではなく、この際公平、簡素を両立できない消費税の廃止を含めて国に再検討を働きかける考えはないのかどうか、市長の

所見をお伺いいたします。

最後に、第5点目として、学校現場における日の丸、君が代の掲揚、斉唱の義務化について教育委員会の明確な見解をお示し願いたいと思います。文部省は、新学習指導要領の策定に伴い順次実施計画を定めておりますが、その中で特に道德教育の一環として日の丸の掲揚、君が代の斉唱を義務づけ、その実施を来年度から強制するとしております。

そこで、教育長にお伺いいたしますが、まず日の丸、君が代は法で定められた国旗、国歌ではないと思いますが、どうですか。

さらに、法で定められていない日の丸、君が代、これらは国民の中からつくられてきたものではないと思うわけでありますが、日の丸、君が代はどのようにしてつくられ、またどのような歴史的背景でだれがつくってきたのか、君が代という歌詞の意味はだれをたたえた歌なのか、教育長の見識をまずお伺いしたいと思うわけであります。

次に、文部省は日の丸、君が代の掲揚、斉唱を来年度から学校現場で義務づける — すなわち強制すると言っているわけでありますが、行政として義務づける法的根拠ありませんし、歴史的に言っても内容的に言っても強制することでは決してないと思うわけでありますが、当教育委員会としてはこれらの件について学校現場に義務づけない、強制しないという表明があって当然であるかと思うわけでありますが、いかがお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

以上、5点にわたって御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 田沢議員の御質問にお答えをいたします。

第1点は消防団の予算についてでございますが、市から消防団に支出されている報酬、費用弁償等の額の基準についてお尋ねでしたが、近隣市、安房郡市内市町村の例を参考といたしまして決定をいたしております。本市の場合、昭和63年4月1日現在の報酬額は県内28市平均と比較いたしま

すと 114.3%から 144%と高くなっておりますが、安房郡市内市町村平均と比較いたしますと76.5%から88%と下回っております。費用弁償の額につきましては、支給の方法、内容等各市町村によって取り扱いが異なっている場合もございますので、単純に比較することは困難でございますが、県内28市では1人1回当たり 200円から 3,000円、安房郡市内では 500円から 1,600円でございます。本市の場合は火災、風水害出動の場合 700円、火災警戒、訓練の場合 500円でございます。

次に、消防団の装備として必要なものについては、支給または貸与すべきではないかという御質問でございますが、昭和63年7月消防団の装備の基準が国において制定されましたので、その基準に基づきまして今後計画的に整備してまいりたいと考えております。

次に第2点、都市計画道路船形川名線についての御質問でございますが、都市計画道路3・4・3船形川名線につきましては、館山バイパスのアクセス道路として、また地域の居住環境向上等からも必要路線であることは十分認識をいたしております。

市内における都市計画道路は11路線計画されておまして、現在館山バイパスから市街地へのアクセス道路として3・4・5八幡高井線の整備を進めており、平成2年の供用が見込まれているところでございます。

道路整備は御承知のとおり長期にわたる事業でございます。今後も市街地整備や居住環境の保全、良好な道路ネットワークの確保等、優先度の高い路線から関係者の皆様の御理解と御協力を得ながら早期整備を進めてまいり考えでございます。

3点、福祉作業所の充実についての御質問でございますが、福祉作業所は在宅の心身障害者であって雇用されることが困難な者に対し、社会生活における適応性を高めるよう指導を行い、その自立、助長を図るための施設として、社会福祉法人館山市社会福祉協議会に管理及び運営を委託しております。現在通所者24人に対し、指導員3人、補助員1人、ボランティア1人の協力により、生活の指導、作業の提供及びその技術的な指導等を行っております。今後も指導員、社会福祉協議会と協議しながら、社会経済の状況の変化をと

らえ、業務の拡大等を考慮しながら充実を図ってまいりたいと考えております。

次に第4点、消費税の問題でございますが、消費税につきましては、既に4月1日から法律が適用され、現在2カ月半を経過したところでございますが、個々の内容について、例えば公平と簡素等の基本的な問題について議論のあることは私も十分承知をいたしているところでございます。また、宇野首相も竹下前首相自らが示した消費税に関する9つの懸念等を踏まえ、今回の税制改革の見直しについて取り組む決意を表明いたしております。したがって、今後これらの動向を注意深く見守りながら、必要に応じて全国市長会等を通じて国等に見直しを要望してまいりたいと考えております。

第5番目につきましては教育長より答弁いたします。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 新しい学習指導要領による国旗、国歌の掲揚、斉唱の義務づけに関する御質問でございますが、国旗、国歌は法令上明確な規定はなされておられません。しかしながら、国旗につきましては、去る昭和63年3月15日、味村内閣法制局長官が「国旗が日の丸だという国民的確信を前提として、商標法や自衛隊法、海上保安庁法に国旗という文言が使われている」と説明するとともに、「日の丸が国旗だということはいわば慣習法となっている」との見解を示しております。従来から政府は日の丸を国旗とすることは国民的習律としており、事実いろいろな行事に際し日の丸を掲揚し、また君が代を歌うことに違和感を持つ人は少ないものと理解をしております。

君が代の歌詞の解釈につきましては、いろいろな論議がございますが、この「君」という言葉は、国歌として君が代が一般に用いられるようになって以来、天皇を示すものであると解釈するのが一般的であると存じます。戦後天皇は日本国憲法におきまして日本国の象徴、日本国民統合の象徴とうたわれているわけですから、今日におきましても「君」は天皇を指すものと解釈しても憲法上矛盾することはないと考えております。したがって、国歌君が代の歌詞は、現行憲法下では天皇を国家及び国民統合の象徴としている

日本国の繁栄を願うものと理解することができます。

国旗の掲揚、国歌の斉唱は、新学習指導要領の特別活動の項で入学式、卒業式において義務づけられることになりました。この文部省の方針に沿って各学校に指導してまいりたいと考えております。しかしながら、学校行事の内容等は学校長が決すべきものと考えておりますので、入学式、卒業式における国旗の掲揚、国歌の斉唱については、新学習指導要領の趣旨について学校長と十分話し合い、納得の上でお願いをしてまいりたい、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 再質問をいたしたいと思います。

最初に、消防団関係でございますけども、先ほどの答弁で余りよくわからないわけです。もちろん近隣市町村、これを参考にして報酬を決めている、そして県内で28市中どの辺の位置にあるのか、パーセンテージを示していただきましたので、これはこれで数字はわからないわけではありません。ただ、私が申し上げたいのは、消防団といえどもやはり仕事を持って、そして団活動をされているわけです。市の中ではさまざまな審議会があるわけですが、この審議委員の皆さんにも費用弁償が払われていると思います。これらと比較してみると、余りに消防団の団員報酬、費用弁償、余りにも少ないんじゃないございせんか。

例えば、消防団員が年間どのぐらい出動するのか、火災、水害、これに出動するのか、あるいは日常の訓練、警戒、予防、そのための巡回、そのための出動があります。年間多分私は10回は下回らないんじゃないかというふうに思うんです。よしんば10回自分の仕事を休んで団活動をやると、あるいは5回でも結構です。単純計算やってみればわかるわけです。市の審議委員の皆さんは多分1度、1回出れば4,500円から5,000円いくと思うんです。消防団はこれにもいかないんです、現状は。これでは余りにも少ないんじゃないかと思う。どうですか、部長さん、団員が平均何回――市内の団員が何回出動しているのか、そうすれば報酬と費用弁償合わせて1回当たりどのくら

い補償しているのか数字的に出ると思います。それを示していただけませんか。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 市内の消防団の出動状況でございますが、これは地区によって大分やはり差があるわけでございます。ということは、どういう火災のときにはどこまでが出動区域だというような区域を定めてありますんで、その地区によって非常に差がある、また訓練の回数などによっても差が出てくるわけございまして、ですから平均して幾らということはちょっと出してないわけでございますけれども、確におっしゃるように費用弁償につきましては、ここのところずっと改正されておらずで、据え置きになっておりまして、御指摘のように低い。これはしかし県下の状況を見ますと、市の中では3市全然費用弁償を出していない市もあるわけございすけれども、しかしそういうところを参考にしようというわけではございません。

ちなみに、郡内の状況を申し上げますと、低いところでは館山と同じで鋸南町は1回火災出動あるいは訓練出動、これが500円、次が和田町が火災出動、訓練出動いずれも700円、高いところでは丸山町が火災出動、訓練出動1,600円というようなことで決められているわけでございます。確かに報酬につきましては、他の委員報酬が上がる場合に同じように引き上げてきているわけでございますけれども、費用弁償につきましては据え置かれておりますんで、今後検討いたしまして逐次増額を図っていききたいと、このように考えているところでございます。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 私はこの費用弁償と報酬、当然出動、訓練含めてです。市内の平均が出るわけですから、そうすれば他の審議会に比べてどのぐらい、どんな扱いされているのかおわかりいただけると思うんです。それがここでは示されませんので、市長さんにお伺いしたいというふうに思いますが、私は消防団には長い歴史がありますから、言ってみれば行政が関知しない時代もあったわけですから、消防団というのは。むしろ地域の人たちが自主的

に生命、財産を守るために消防団をつくって自分たちのお金でやっている、そういった時代があったと思うんです。そういった時代から、やはり社会的にも認知されるし、それが行政としてやはりやった方がいいんだと、さまざまな法律も整備されて、それで費用弁償なり報酬を払ってきたという歴史があると思うんです。

それにしましても、市の条例で定めているわけですよね、消防団は。例えば、団員の行動が規制されるというふうに言いましたけれども、条例でいいますと、例えば団員が10日間以上自分のうちを離れる、旅行に行かれるとか、そういった場合は許可を受けなければいけないとか承認受けなければいけないとか、さまざまな行動を制限されながら団活動をやっているというのが現状だと思うんです。

例えば市の清掃審議会、あるいは私、保全公社の理事になっておりますから、この理事の活動は多分年2回ぐらい、予算と決算やるぐらいです。それでも消防団の費用弁償よりはるかに高いわけです。活動内容からいえば、もちろん保全公社の理事の仕事も大変な仕事であるわけですが、内容からいえばはるかに消防団の方が大変じゃないでしょうか。清掃審議委員、さまざまな審議委員がいらっしゃいます。余りにも低いと思うんですよ、いろんな歴史があるにしても。やはりこの際市長さんにあっては、かつての歴史を強調するのはいいんですが、余りにも団員の自己犠牲、献身さ、こういったものにだけ依存し過ぎる、こういった考え方はやはり改めて、現状に即した費用弁償、報酬を払うべきだというふうに思います。皆さんの説明聞いてみますと、どここの町がこうだから、あそこの町は館山より低い、あそこの町は高い、これだけなんです、やはり現実に即した報酬にする、費用弁償にする、この辺はやはり市長さんがきちんと意見を示していただけませんと各担当も大変だと思いますが、市長さん、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 消防団の報酬、費用弁償等につきましては、やはり消防団そのものが歴史的な経過があると同じように、その費用についてもやはり歴史的な経過がある。それで、やはり他の市町村との振り合いというよ

うなことを考えていろいろやってきたんだろうと思いますが、御指摘の点は確かにごもっともでございますので、検討いたします。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） ぜひ前向きに、現実には即したようにやっていただきたいというふうに思います。

それと、消防団に関してもう一点だけ御質問をしたいと思うんですが、市の消防団に対する予算、これが少ないためにやはり — 各地区の消防団には後援会がありますけども、この後援会の予算を見てみますと、市が実際消防団に出している金よりも2倍、3倍というところもあるんですよ、後援会の予算が。私もびっくりしました。幾つかの決算書を見せていただきました。中には非常に後援会の財政規模が少ない、これは地域の事情があってそういうふうになっているかと思うんですが、少ないところもあるんです。例えば後援会の予算が多いところは当然地域住民の負担も多いわけですが、例えば後援会の財政力のあるところは冬の防寒ジャンパーあるいは半長靴、あるいは費用弁償大変安いですから出動手当、これも地域で後援会でもって団活動を支えている、そうしないと団員が集まらない、こういった現状もあるかと思うんです。

あるいは、消防団の運営費がどのくらい出ているのか明らかにしていただきたいと思うんですが、例えば各後援会から消防団へ30万、40万、50万各部に対して補助費が出ていると思います。これが消防団の運営費になっているのではないかというふうに思うんです。この運営費の中で、実は年末の寒期中、私も船形に住んでいますけども、非常に西風が強い、火災の危険がある、そうしますと警戒業務につきます。大変寒いです、帰ってきても、業務について。これはどこでも同じだと思うんですが、そうすると当然ストーブがなければいけない、当然灯油がなければいけない。あるいは遅く帰りますから腹も減るでしょう。弁当もなければいけない、夜食もなければいけない。実はこういった金を含めて後援会が出しているんです、後援会が。このことを称して消防団は飲み食いしているんじゃないかと、そのために金が高いんじゃないかと、そういった批判をする人もいらっしゃいますが、私は現状はや

はり運営費も含めて余りにも後援会に依存し過ぎる。

先ほど市長さんの答弁では、装備等に関して国の基準ができたので、これに合わせて改善していきたいと、こういう話がありました。これじゃあ遅過ぎますよね。少なくとも半長靴、保険料 — 出動手当まで出している、こういったものも含めて、やはりきちんと市で手当てをして改善をしていただきたい。この辺まで含めて、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 確かに装備の中で、今まで国の基準がはっきりしていなかったために、必要なものが支給されていなかったかなということも考えられるわけでございまして、その中に今回国で示された基準でいきますと、雨衣、安全帽 — これはヘルメットだと思いますけど、それから靴 — これは革靴、半長靴あるいは短靴でもどちらでも — 半長靴だと思います。こういったものが今まで支給されていませんでしたけれども、これは支給すべきものという基準で今度は定められました。したがってこれらを、館山として支給されていないものはこの3点が考えられるわけでございすけれども、これを今後整備していきたい。

それから、夜食の経費ですとか、それらは費用弁償の中でやはり検討を加えて、検討すべきだと思いますんで、先ほど市長が御答弁申し上げましたように、他地域の状況等をよく踏まえながら、総体的な見直しということでもって検討していきたいと、このように考えております。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） もう一点だけ、これ館山市消防団員の訓練式及び服制に関する規則がございますね。この規則の中に、例えば貸与するもの、例えば作業服だとか制服なんかありますね。真夏の上着だとかズボン、あと作業服、階級章とかあるんですが、特にズボンとか上着とか、これ貸与期間が8年、4年 — 団員の任期は4年だと思うんです。余りにもこれも粗末ではないですか。例えばこれズボンで見ますと貸与期間が4年、1着、あと上着もそうです。4年間に1着、これ衣というように — 甲種というふうに書いてありますけども、これ1着、8年に1回ですよ。作業服等は4年に1着、

だから消防団員の皆さんが言うんですよ。訓練しても出動してもべちゃべちゃになっても着がえは全部自前持ちと、余りにもひどいではないかと、そういった声が出て当然だと思います。これも私はやはり変える必要があるんじゃないかというふうに思いますが、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 総体的な見直しの中へ加えて考えていきたいと思っています。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） そんなわけですから、ぜひ消防団関係の予算、これについては全面的に見直しをやって、改善すべきものは早急に改善していただきたい、そういうふうに思います。

それで、第2点目の都市計画道の問題に移ります。先ほどの市長さんの答弁ですと、バイパスへのアクセス道路、そういうものとして私が質問申し上げた船形川名線、非常に大事だと、しかし都市計画道は全体で11本あると、優先度によってやっていくんだと、そんな答弁でしたので、実際私が質問した船形川名線、これが一体いつ実現するのか全然わかりません。ここで明らかにしていただきたいのは、都市計画道路の11本の計画があるわけですが、実施の優先順位、これをお示し願いたいというふうに思います。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 現在都市計画道路として決定されております道路の優先順位ということでございますが、市の方といたしましては1本1本その順位を決めておるわけでございまして、何と申しますか、前期、後期というような分け方を今しておるわけでございまして、前期が大体10年以内に事業着手しようということで考えておるもの、それから後期がそれ以降というように考えております。なお、3・4・3号線ですか、これにつきましてはいわゆる後期のものということで現在は考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 都市計画決定をしても船形川名線、これは10年以降

と、正直言ってお話になりませんよね。私も市の都市計画道路について、この間議会の中でさまざまな論議があったわけですね。余りにも進捗率が遅い、遅いから都市計画道路の上に建物が建っちゃう、2階建てしちゃいけないのもできちゃう。どういう仕組みでできるかわかりませんが、できちゃう。そのうち図面の上にうちがいっぱい建っている。そういう現状から都市計画道路、これは見直しをやるべきじゃないのかと、そういった議会での論議もありましたね。

それで、私は友達に都市工学の専門家がいますから、館山市の都市計画道路の図面を見せました。私の友人が言うには、「やはり田沢さん、これはこのとおりやらなければだめだよ」と——これは専門家です。「大変でしょうけども、このとおりやらないとバイパスが生きない」。しかも、私が船形川名線、これを質問したのが、船形は館山市の北の玄関になっている。バイパスが供用される。また、バイパスから八幡を通して海岸道路へ抜ける都市計画道路ができた、たった1本だけ。やはり北の玄関口をきちんと真っすぐした都市計画道路に再編成してやる必要があるんじゃないですかと、こういった提言を受けました。

もちろん西口の開発が進めば、西口から海岸におりる道、あるいは東口、22メートル道路から、いわゆる八幡の房総米穀からずっと真っすぐきて22メートルにぶつかる都市計画道路、これはセットで実現しなければ意味がない。船形の場合も全く同じ。いわゆる今年度船形館山港線、この拡張のための予算をつけましたよ。八幡の線ができるということでつけてありますね。海岸道路を幾ら広くしてもしょうがないじゃないですか。今海岸はそんな込みません。むしろこの船形館山港線を有効に使うには、船形川名線、これをバイパスに直結させて、そしてこの道路にいわゆる海岸線が真っすぐ行くと、こうすれば少なくとも館山の北口の玄関——船形、ここの交通問題は解決をしていくんじゃないかと、そんな話をやはりしておりました。私もなるほどなと、そのとおりだというふうに考えているわけです。

そこで、この点に関してもう一点だけお聞かせ願いたいと思うんですが、いわゆる船形川名岡線、後期だと。後期にした理由は何ですか、その辺のお

考えをお示し願いたいというふうに思うんですが。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 御案内のように、道路関係は大変な予算を使用するものと、それからやはり一つの市で一遍に2つも3つもの路線を設定ができない、国庫補助もつかないというような、そういうものもございます。それからまたもう一つは、一番大きな点ですが、それ以外にも先順位としてやらなければならない、今田沢議員さんがおっしゃったようにやはり土地区画整理事業の関連だとか、あるいはその周辺のものだとか、そういうもので、まだまだ先に整備をしなければならないもの等があるわけでございます。したがって、市といたしますと残念ながらいいましょうか、ほかのものが先順位になってくる、あるいはまたリゾート絡みでやはりネットワーク上どうしても必要な、優先度が先になるというようなものがあるわけでございます。そういうようなことで、後期に川名線がなっておるというようなことで御理解をいただきたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） この点に関して平行線になっておりますから、一言だけ申し上げておきたいというふうに思います。地元が要らないという道路には非常に皆さん固執するんですよね。22メートル道路なんか要らない、役に立たない、こんな地域がありますね。ここに非常に執着しまして通したい、多分前期の方でしょうね。そして、住民が早くやってほしい、協力もする、こういった地域は後期だと、こういう現状はやはりなくしていただきたい。一日も早く地域住民が要望する線、この辺をぜひ――前期、後期というお話がありましたけども、十分検討していただきたい、要望しておきたいというふうに思います。

それと、3点目の福祉作業所の件です。私は非常にすばらしい施策をやっているのと、市長さん褒める人余りいませんけども、この福祉作業所だけは非常に評判、私の地区でもよろしいんです。ぜひ、職員が3人という話がありましたけども、本当の職員は1名じゃないですか。内容を余り言ってもあれですから、差し控えたいというふうに思いますが、やはりきちんとして、

指導できる職員、今1人の方で踏ん張っております。やはり仕事は、教えられるんでしょうが、教育はできませんよ、現状では。また、後継ぎがいませんよ。30名入れる施設なんです、目いっぱいですよ。私は養護学校あるいは中里の施設、養護学校の先生方も来ていますね。福祉作業所に入れてやりたい。あそこも入所の判定基準があるわけですが、みんな引っかかっちゃう。受けられないんですよ、現状では、作業所で。中里の家、あそこに入れなくても、福祉作業所でももう少しスタッフが充実していれば、あと6人から7人受け入れられるスペースがあるわけですね、そういう施設になっているわけですから。そこを御理解をいただきたいんですよ。ぜひ将来的にやっていくとかそういうお話じゃなくて、早急に改善をしていただきたい、このことを市長さんに要望しておきたいというふうに思います。

時間がありませんので飛んでいきますけども、消費税の問題、これはこれでまた委員会で論議ありますので、委員会で引き続き論議をしたいというふうに思います。

最後の学習指導要領の日の丸、君が代の問題、これじゃいけませんね、教育長さん。やはり国会の場の中で、日の丸、君が代、これは国旗、国歌ではありません、そういうふうにお答えになっているじゃありませんか。文部省だけが勝手に日の丸、君が代が国旗、国歌だと。文部省だけじゃないですか、こんなことを言っているのは。とんでもない話ですよ。

それと、君が代の歌詞、天皇陛下を指すだろうと、確かに現在は天皇陛下は国民の象徴です。私もそういうふうに理解しておりますし、そういうことでいいんじゃないかというふうに思っているんです。しかし、君が代、できた時代背景、明治の前半です。古今和歌集か何かの出ている歌詞。あの時代は主権は天皇ですよ。万世一系の天皇ですよ、主権は。それをたたえるために君が代に歌詞をつけて歌ったんですね。国がやったわけじゃないんですよ。日の丸もそうですね。だれか勝手に日の丸をつくったんじゃないんです。今でいえば郵政省になるかと思いますが、日本から船が外国に行く、そのときに日の丸をつけていった。それが戦前軍隊のシンボルとして日の丸が使われた。そしてその軍隊は朝鮮へ行って侵略をやったり、中国へ行って侵略をや

ったり、その日章旗が法律でも国旗と決まらない前にまず教育現場でやられましたね、子供さん何にも言いませんから。文部省がいわゆる天皇を支える日章旗、君が代、これを教育現場でやらせましたね。それをもって今日慣習法だと、慣習法に近いと、教育長さんまでそういうふうに考えられておるんですか。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

非常にデリケートな難しい問題でございますが、私もそのように実は考えておるわけでございます。いろいろと指導があったんでございますけども、最近では文部省の初等中等局長の菱村幸彦という方がやはりこういうことをおっしゃっているんです。法律に定められていないからといって、やはり国旗ではない、国歌ではないという考え方は文部省はとらないと、そういうことをはっきりと主張されていらっしゃるし、私たちは文部省の指導に服していくのが行政の立場でございますので、私自身もそのように思っておりますし、また私も現場におりましたころ、日の丸の掲揚、君が代の斉唱の問題につきまして職員と討論をやりましたけれども、やはり大多数の職員は国旗及び国歌と呼ぶことに賛成であり、またこれらを斉唱し、これらを掲揚することについては賛成でございました。したがって、私がおりました学校ではもう数年前から国歌を斉唱し、国旗を掲揚しております。

現在館山市の学校におきましても、卒業式にはどこの学校でも、館山市の小中学校では卒業式はもう全部の学校が国旗を掲揚し、国歌を斉唱いたしております。入学式につきましては、1校のみだけまだ国歌を斉唱しない学校がございます。先ほど私が納得ずくの上、指導を加えたいと申し上げたのはその学校でございまして、校長と十分話し合いをいたしまして、この文部省の方針に従っていきなと、こう考えているわけでございます。

ただ単にこれは国旗を掲揚し、国歌を斉唱するというだけの問題ではございませんで、これには国際理解の時代に参りまして、外国といろいろな交際を保っているに当たりまして、他国の国旗、他国の国歌ともいろいろとこれからの日本人は接触することが多い、そういう際に自分の国旗の意味、自分

の国の国歌の意味を理解できないような国民が、果たして外国のそのようなものを尊重するような風習ができるかというような大きな問題も含んでおりまして、やはり教育上このような方針は私は正しいんじゃないかなと、こう考えておるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 以上で田沢勝信君の質問を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 通告順に御質問を申し上げたいと思います。

まず最初に、観光の振興と城山公園の整備について御質問を申し上げます。城山公園の整備は、半澤市政15年の在任中最も多額な予算を投入した画期的なものであったと思います。平成元年におきましても、日本庭園並び茶室の建設が計画され、ますますその充実が図られているところでございます。そこで、この点について御質問をいたします。博物館、彫刻の森、日本庭園等は市民の憩いの場であり、安らぎの場を目的にするものであらうと思われます。また、里見八犬伝の物語と館山城をシンボルにした施設は観光の拠点を目的にするものであると思われます。しかし、その方向性と特色が現在はっきりと見えないわけでございますけれども、この点について私は明確にしていきたいという立場でお伺いをする次第でございます。

特に、私は城山公園が観光の拠点として観光客の吸引力に欠けるのではないかとと思われることでございます。さきの岩村議員の質問にもありましたように、市民の利用も少ないと思われるのでございます。この点について市長はどのようにお考えになっておるのか、お尋ねをいたします。

次に、観光の拠点として観光客に来てもらうためには、頂上への自動車の乗り入れが必要であらうと思われます。そして、頂上を回遊して下山できる自動車道の整備もまた必要であり、私は設置してもらいたいと思っているわけでございます。この点についても、ひとつどのようなお考えをなされておるのか、お尋ねをするところでございます。

2番目の質問に移ります。市長が所有するＪＲ館山近くの駐車場に公道が

組み入れられ、そしてその駐車場から収益が上げられていることが新聞報道なされました。この新聞は全国でも、千葉県でも発行部数が最も多く、しかも千葉県版のトップに7段抜きの写真入りで報道されていたわけでございます。したがって、時が時だけに市民に大きな衝撃を与えたわけでございます。同時に、この問題は千葉県下の多くの人たちの話題になっておりますことは既に御案内のとおりでございます。したがって、市民は非常に肩身の狭い思いをしているわけでございます。この点について市長自身はどのような所感をお持ちになられておられるのか、市長に対して弁明をお願いしたいと思います。

次に、新聞に報道されている内容については正確であると思われませんが、この点についてもどのような見解を持っておられるのか、お尋ねをする次第でございます。

さらに、駐車場の中央にある公道を結果的には無許可で使用している点については、報道によりますればうっかりミスを強調されておりましたが、諸般の状況から見て承知の上での使用としか思えません。この点については率直なところを教えてくださいたいと思うのでございます。

もう一点お伺いたします。公道は幅 1.2メートルの入り口でございます。奥行きは約40メートル、すなわちこれは国有地になっているわけでございます。この数字は公図上のものでございしますけれども、そして一番奥のところは若干広がりまして 1.5メートル、かなりの土地でございしますけれども、この公道を長期にわたり駐車場に含まれ、違法な状況の中において利益を上げられていたわけでございますけれども、この点については今後どのように対処されていかれるのか、そのお考えをお尋ねする次第でございます。

3番目の質問に移ります。半島振興法による4年間の成果と今後の事業展開について御質問を申し上げます。この半島振興法は、三方を海に囲まれ、地理的な条件で開発のおくれている半島地域の振興を図ることを目的に、昭和60年6月、自民党、社会党、共産党、公明党、民社党を初め全党が一致して議員提案として制定された法律でございます。最近非常に珍しい法案であ

るわけです。それだけに非常に内容はすばらしいと私は評価しているわけ  
でございます。

そして、この法律によりまして全国で19カ所の地域が指定されました。翌  
年には半島振興計画が総理大臣の承認を得たわけでございますけれども、  
当然館山市もその中に含まれておるわけでございます。したがって、半  
澤市長は当時鬼の首をとったかのような勢いで、半島振興法の指定により館  
山市は過疎地からの脱却ができると表明されております。議会でも市民にも  
声高らかにうたい上げられたわけでございます。しかし、現実には4年を経  
過した現在ではその成果がほとんど見られないようにうかがわれるわけでご  
ざいます。

そこで、御質問をいたします。指定を受けて4年間にどのような事業を実  
施し、成果を上げたのか、具体的に教えていただきたいと思ひます。

また、半島振興法は昭和70年、すなわち平成7年3月で終わる時限立法で  
ございます。これから実施を予定し、実現が可能と見られる事業の内容につ  
いてわかりやすく教えていただきたいと思ひます。

第4番目の質問に移ります。宮城の浄水場に至るトンネルと館山小学校わ  
きの沼地区排水路について御質問をいたします。宮城浄水場に至る市道は、  
沼から神戸地区への道路として昔から非常に重要な地位を占めてきておりま  
す。その入り口のトンネルの破損は目に余るものがござひます。そして、非  
常に危険な状態になっているために、大きな立て看板が立っているわけでご  
ざひます。また、トンネルの側壁の崩れによりまして、農業用水路もせきと  
められておるような状況になっております。したがって、この改修につ  
いては地元から陳情が再三なされておるようでございますけれども、この  
改修の見通しはどのようになっているのか、お尋ねをいたす次第でござひま  
す。

5番目の質問に移ります。市役所の土曜閉庁については、3月議会に続い  
て再度の質問となります。前回も申し上げましたが、リゾートの地域指定を  
受けた館山市が、国、県、金融機関が既に土曜閉庁を実施し、しかも市町村  
も全国で半数以上が3月議会で議決をしておると伝えられております。した

がしまして、今度の議会には私は必ず提案されるのではないかとお待ちしておったわけでございますけれども、残念に提案はされません。

そこで、質問をいたします。3月議会の答弁で、土曜閉庁は検討委員会を設置し、市民生活への影響等を考慮したいとのことでありました。そこで、検討結果についてどのようになっているのか、お伺いをいたします。また、市長は国、県の動向を見て対応したいとのことでありましたが、国、県の動向、そして指導はどのようなものがなされておったのか、あわせてお伺いをする次第でございます。

最後になりますけれども、安房郡の町村会は11月から土曜閉庁をすることを新聞紙上に発表をいたしております。鴨川市もこの6月議会に土曜閉庁の議案が提案されて、現在審議されようとしておるわけでございます。したがしまして、館山市だけが取り残された形になっておるわけでございますけれども、今後どのようになされてまいるつもりであるのか、御質問をいたす次第でございます。

以上、質問を終わります。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点でございますが、その小さな第1点、城山公園の整備目的と観光開発の関係についてということでございますが、城山公園は都市公園として、地域住民の憩いの場、歴史との触れ合い、文化、教養の涵養の場として整備を進めてきたところでございますが、市の大きな観光資源としての役割も有しておりますことは、観光バスの立ち寄り、博物館の入館者、城まつり等の来園者の地域別割合からも裏づけられております。したがしまして、総合公園として城郭型博物館分館等を含めて計画されたことは、観光の一つの拠点ともなり得る公園として整備を進めてきたということでございます。

次に、小さな第2点、頂上に通ずる自動車道の整備という御質問でございますが、城山公園は都市公園でございますので、公園内の利用者の安全が第一でありまして、一般車両の乗り入れは考えておりません。ただし、身体に

障害のある方、高齢の方につきましては一部乗り入れを認めております。また、道路の新設につきましては、公園の規模からも、館山城址として市の史跡指定を受けていることから、これ以上の地形変更は不可能と考えております。

次に、私の所有する駐車場に関する御質問でございますが、私の所有する駐車場について新聞報道をされましたことは、まことに申しわけないことだと考えております。問題の駐車場は、館山市北条南川井2196の2、同じく2194の2、2193の2の3筆になっているわけでございますが、2196の2は私が相続をいたしたものであり、2194の2、2193の2は34年ごろに買い入れたものでございます。2196の2と2194の2の間にいわゆる赤道があったわけでございますが、現在は5月17日土地家屋調査士に依頼し、館山土木事務所係員立ち会いの上で測量し、位置及び地積を確定し、その部分を開放し、駐車場から除外してございます。

また、館山土木事務所に申し出まして、いわゆる払い下げを受けるべく、土地家屋調査士に依頼しまして手続の準備中でございます。

また、当該土地は40年ごろから当時私どもの会社と取引のございましたサカモトデパートがお客様用の駐車場にしたいという申し出がございましたので、無償でお貸しをいたしておりましたが、昨年5月に返してもらい、7月より駐車場として利用したわけでございます。したがって、赤道部分についての昨年7月以来本年の5月までの11カ月分についての料金については、館山土木出張所に申し出てございますので、その御指示に従いたいと考えております。

次に第3点、半島振興法による4年間の成果と今後の事業内容についてということでございますが、その小さな第1点、まず4年間の事業内容でございますが、南房総地域半島振興計画については、市町村の意向を踏まえつつ、国や県の事業を中心に千葉県が計画を策定し、昭和62年7月21日に内閣総理大臣が承認いたしましたものでございます。計画の内容といたしましては、地域づくりの目標として開かれた地域づくり、活力ある地域づくり、憩える地域づくり、住みよい地域づくりの四つを掲げ、この目的を達成するため、道路

交通網の整備、産業の振興、環境の保全及び国土の保全、居住環境の向上に関する各種事業が計画されているわけでございます。

本市に関連する主要事業といたしましては、リゾート整備を中心とした産業の振興、東関東自動車道館山線を初めとする広域幹線道路網の整備、広域的な水道整備による水源の確保、さらには県立館山運動公園や館山駅周辺市街地整備等の都市基盤施設の整備、県立南房パラダイスの整備や南房総地区における県立文化ホールの建設などが計画へ位置づけられているわけでございます。現時点では、総合保養地整備法に基づく房総リゾート地域整備構想の承認、東関東自動車道館山線の国土開発幹線自動車道への位置づけ、さらには県において南部圏域広域的水道整備計画を策定中など、当地域の振興を図る上で重要な事業がおおむね順調に推移してきているものと評価しているところでございます。

計画期間までに今後予定されている事業内容につきましては、東関東自動車道館山線の建設を初めとする継続的な事業及び県立文化ホール建設などの新たな事業がございますが、いずれにいたしましてもそれぞれ国や県が事業主体の中心となり、実現に向けて計画された事業が実施されていくものと伺っているわけでございますし、県の次期総合5カ年計画の中には当然半島振興計画に掲げた事業が位置づけられ、実施されていくものと考えております。また、市といたしましても南房総地域半島振興協議会等を通じて関係機関への働きかけを行い、計画された事業の実現に向けて努力してまいり所存でございます。

大きな第4点、宮城浄水場に至るトンネルと小学校横の沼地区の排水についてでございますが、まず小さな第1点、宮城浄水場に至るトンネルの改修の問題でございますが、市道 276号線にある宮城トンネルにつきましては、出入り口に危険と思われる箇所があり、現在改修計画を進めているところでございますが、なるべく早い時期に対処したいと考えております。

次に、小さな第2点でございますが、沼地区農業構造改善事業の排水路を下流まで延長できないかという御質問でございますが、この排水路改良計画につきましては、昭和63年度に専門業者である千葉県土地改良事業団体連合

会に調査設計を委託し、集水面積及び最大雨量10年確率に基づき国、県と協議、検討いたしました結果、排水機能を確保するための区間改良として計画されたものでございます。なお、下流につきましては、現況で排水機能が十分あるとのことでございます。したがって、御質問の下流まで延長するというにつきましては、計画をいたしておりません。

次に、大きな第5点、土曜閉庁についての御質問でございますが、まず検討委員会の討議結果でございますが、土曜閉庁問題検討委員会につきましては、助役を長として本年4月に設置いたしまして、閉庁の意義や影響、実施の時期等につきまして内部的に検討してまいりましたが、同時にこの問題につきましては安房町村会からの呼びかけもございまして、当委員会としても実施時期等については郡市一体として歩調を合わせ、導入することが望ましいとの結論に達したわけでございます。また、市民生活への影響でございますが、導入に当たり、特に関係の深いごみ収集業務や保育園、幼稚園、博物館、図書館などは現体制で実施してまいりたいと考えております。

小さな第2点、国、県からの指導内容でございますが、国、県の指導につきましては、原則的には各自治体の自主的判断によるものとしておりますが、できるだけ早い時期の導入を呼びかけております。

次に、小さな第3点でございますが、安房地区内の実施状況と本市の対応についてでございますが、この問題につきましては、先ほども申し上げましたように町村会から呼びかけがございましたので、本市も参加し、実施時期等について協議をしてまいりました結果、9月議会に上程し、11月から実施の方向に向けて安房郡市が同一步調をとることが望ましいとの結論に達しましたので、本市といたしましてはこれに歩調を合わせ、実施してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） では、順次再質問をさせていただきたいと思います。

ことしの施政方針の中におきましては、城山公園につきましては一つは先

ほど申したように市民の憩いの場として、また同時に観光の拠点として充実していくんだと、こういうことがうたわれているわけでございまして、非常に施政方針の文句としては私は非の打ちどころがないし、そのようになっていると、こう思っておるわけでございますけれども、現実的にはかなりの隔たりがあるんじゃないかと思うわけでございます。今の答弁からまいますとも、市長はそのような形でもって観光としても博物館その他もかなり利用されておると、こういうふうなこともおっしゃられておりますけれども、現実的に地元の観光業者なり地元の関係者等の話を聞いても、ほとんどこれでは観光客を呼べる状況じゃないし、また観光客に来てもらっているところと見てもらうという状況じゃないと、もう少し抜本的な観光客を呼べるような対応をしてもらいたいと、こういうことが言われているわけでございますけれども、そこら辺についてはどのように考えておるか。

特に、市民の憩いの場として非常に活用されておるということでございするけれども、この点につきましても、午前中の質疑の中において、岩村議員がやっぱり地元のアンケート調査したところが、やはり八幡を中心とする地元の人はほとんど城山を利用していないと、あそこに膨大な金かけることについてはちょっと問題もある、もっと生活基盤に対してそれだけの金があるんだったら云々ということが一番多かったというようなことを言われていると、そうすると市は非常に市民の憩いの場として利用されていると言っているながら、現実には地元の人に具体的にアンケートとってみますと余り利用していないと、このジレンマをどのように考えるのか。私はこれはただ議会でもって、市長の答弁、部長の答弁、観光の拠点としてますます充実させていきます、市民の憩いの場でやっていきますと、ああそうですかと、それは違いないと思うんですが、現実にはそうではないと思うんです。この点はどうしてお考えになるか、まずお尋ねします。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） いわゆる城山公園全体としての利用というものは、なかなか調査が困難でございまして、やってございませんが、ただ博物館あるいは博物館の分館等を利用しているそのデータがございしますので、そ

れによりまして若干説明させていただきたいと思うんですが、57年から63年まで利用者数は40万 5,000人でございます。そのうち市民以外の入館者、これは30万 6,600人でございます。約75.7%が市以外からおいでになった方というようになっております。それで、時々城山で公園としてどれぐらい1日利用しているのかということで、テストパターンとして調査しておるわけですが、それによりますと大体 330から 340人ぐらい1日お入りになっておると、利用していらっしゃるというようなことをつかんでおります。そんなところが現状でございます。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 今の数字を言うと、私は現実的にはそういう数字でも、3年間で40万、決して観光の拠点としては十分だとは思いません。40万という数字になればそうかと思えますけれども、具体的には普通観光的に誘致するということになってきますれば、年間30万なり40万というのが一般的でございますから、そういう面ではかなり小さいと言われるわけですが、また1日に直すると 300人程度ということでございますけれども、私は割合に体力もありますのであそこに上がるんですけれども、そう1日 300人も 400人もということが、うかがえるような状況は余りないですけれども、そこら辺については私はもう少し現実的に対応してもらいたいと、そのことについては平行論になりますので引きましますけれども、現実的にはそういう面で十分、市の思っているほど地域の住民は認識していないと、かなり隔たりのあるということを私はここでもって要望いたしまして、今後に譲りたいというふうに思います。

それから、やはり観光の問題として、城山に自動車を通れないということはかなりやっぱり問題あるかと思えます。今の答弁でございますと、ちょっといろんな面でもって不可能だということを言っております。狭いということと、それからあそこがいろんな文化財的なものがあるということでございますけれども、私はいろんなかなり文化財的にもすぐれている城とかそういうところへ行きますと、かなり今思い切って、もう城の中まで車が

入って、観光バスが入って行って、その庭を駐車場にを使って、そこで見て帰ってくるというのが非常に多くなっています。特殊なところで全部が全部と言えませんが、そういう傾向にあります。そういう面では館山はちょっと無理じゃないか。

私はあそこの地元でございますから、6月の30日は毎年浅間様という行事がありまして、これは夜中に海の砂を持って奉納に上がるわけですが、青年会の若い連中でも、山のとっぺんまで、息が切れちゃう、堪忍してくれということで、半分ぐらいしか上がりません。かなり地元の人でも、丈夫な人はいいですが、私は健康のためだと思って無理して上がりますけども、かなり普通、安易に行くという状態じゃないわけです。ほとんどの人がやっぱり車でも上へ上げられればなということで、確かに鎖がやってあってそれは外せるようになっておりますけれども、なかなかそうはいかない、こういう点であろうし、観光客もあそこへ上がるとなると、往復1時間はかかります、歩いて上がりますと。なかなか日程的には組めるスペースじゃない、そういう面でやはり回遊しておりということをやらないと観光的にも人は呼べない、こういうことが言われているわけです。

そこでもって私は再度質問するわけですが、今言った狭いということは私は理屈だと思います。やる気になればできるはずでございませう。また裏側へ通せばいいわけですから、そう山が変形するわけじゃございませう。私は小さいときからあの山を知っております。軍隊が崩して、そして頂上もなくなりました。そういうのを見ておりますから、私の小さいときのイメージと今のイメージは全く違います、山そのものも。そして、あそこの山というのはもう戦時中にかけてめちゃくちゃに壊されちゃって、昔の人、私の小さいときの記憶からいうと昔の原形はありません。

そういう面からいきますと、余り文化財とか云々というようなことを言うのはそれは一つの逃げ口上であって、文化財であれば今の前の道路、あそこ全然なかった道路でございませうけど、前やはり大きい道路ができています。昔あの道はなかったんです。どこでも文化財のところでもいろんなロープウエーが通ったり自動車が通れるんです。やる気になればなんです。そ

ういうことがやたらに文化財的な地域に入っているからちょっと困難でございますと、これは私は逃げだというふうに思います。本当に観光客を誘致するには、または地域の人が安易に上げられるには、やはり車でもって回遊してずっと行けるようなものもやってやるということはやはりあそこの場合必要じゃないかと、そういうことをほとんどの人は言います。この点についてはどうなのでしょう。あくまでもそういう面で固執して、ちょっとできないともう、今聞いただけでも最初からもうやる気がない。やる気があれば、文化財の問題だって調査してやれば別にやれるわけですし、それは私は理屈だと思えますけど、その点どのように思うのでしょうか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） たしか昭和56年から57年だったと思いますが、あそこの城山の公園を整備するに当たりまして、登山道路といいましょうか、上まで上がる道路をどのようにつくったらいいかということで検討したことがございます。その第1番のコースといたしますと、東側を通りまして、そして八賢士ですか、あそこのお墓のちょっと北側になりますが、その辺を通って、そして現在梅林がございますが、梅林の一番北側の斜面でございます。南側を向いた斜面でございますが、そこを通りまして千疊敷を通じて上がるというコースを第1候補に挙げたわけでございます。そういうことで、当時の教育委員会にお願いいたしまして文化財審議委員会にお諮りしたわけでございますが、かなり長期間にわたりまして検討した結果、どうしてもそこはまずいと。何ゆえかという、あそこにはちょうど八賢士の墓に下ってまいりますところに空堀があると。ちょうど山の峰のところを通過して階段があって、そして八賢士のところにおりていくコースがあるわけですが、ちょうどその中間地点に峰を削ったような場所があるんです。これは空堀だということで、これは大変大切なものであるんで、これはまずいということが第1点。それからもう一つは、現在梅林になっています下の平地のところでございますが、その場所がいわゆる義康御殿跡であるというようなことが言われておるわけでございます。傾斜地といえども、やはりそこを埋めなければ、ある程度埋めたり崩したりしていかなければ登山道路はつくれませんと、しか

も5メートルも6メートルもある道路をつくるということは大変地形を變形することであって、これは文化財保護上まずいということで、どうしてもそれは受け入れられなかったわけでございます。

それならば、あとどういうことが考えられるかということで、先ほど辻田議員さんがおっしゃったように、あそこは戦時中大変山が変わったそうでございます。そういう変わっている中で、何とか文化財を壊さないような方向で頂上まで皆さんが上げられるような、しかもできるだけ緩やかなコースで何とかならないかということで検討した結果が今のコースでございます。それでも一般道路といたしましてはあの勾配が限度でございます。そういうことでやむなく今のコースになったということで、これをまたさらに方向を変えましても、ちょっと南側に参りますと、周遊コースとしてはなかなか大きな橋をかけるなり相当その山を崩すなりしないと登山道路はできない、周遊道路はできないというようなことになるかと思えます。したがって、大変市としても文化財というものは大事にしていきたいというような考え方もございますので、今のあれではちょっと無理じゃないかというように考えております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） そういう理屈というのはわかるんです。私もあそこでもって、小さいときからよくもう隅々まで知っていますけど、今つくっているツツジ園だとかツバキ園だとか梅園だって、見方によれば適当にどんどん、どんどん崩してやっているんです。そういう、今こういうことを言うと、きちょうめに文化財がどうだとかこうのということで、それはもうてっぺんからやる気がない、やるんだったらほかのところでやりようは幾らでもあるんです。今そういうことを言うと、何でああいう山の上をがちゃがちゃ、がちゃがちゃかき回しちゃうんだと、地元とすればそう言いたくなるんです。片一方ではそういうことをやっている、片一方では道路云々というとなるとやれ文化財で何が何と、御託を並べる、そういうことでもう最初からすれ違っている。これ以上あれしてもいけませんので、そこら辺は私は地元

にはそういう意向があると、自動車を回してもらいたいと、そういうことは十分ここでもって認識していただきたい。今後市長なり当局はそういう答弁でもってやっているということについては、それはもう熱意と、そういうものはないというしか判断できないわけでもって、これ以上の討論はあれですからやめますけれども、一応そういうことでございます。

2番目の問題に移ります。この件につきましては、市長さんは私は結果的には大変なことをされたというふうに思います。やっぱり新聞で報道されたということ、そのことについては私は大変な問題であるし、またあの内容について今市長さんがおっしゃられたとおりであるわけでございますので、したがってそのとおりであると私は事はそう簡単には進まないんじゃないかというふうに思います。それで、一つは、今安房支庁に頼んで家屋調査士を通じてこの土地については払い下げというんですか、用途廃止等の手続をとって処理をしている、こういうことでございしますけれども、まずその点についてはそういうことであるのか、確認しますけれども、そういうことですか。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 準備中でございます。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） そして、その点について私はここでもって十分市長も認識を新たにしてもらいたいと思うわけでございます。今非常に大変な時代でございます。5月の31日にはアメリカのジム・ライトという下院議長、これはもう副大統領に次いで大統領の継承権を持った人なんですけれども、奥さんが友人の企業から3年間にわたりまして報酬をもらったということと、その会社から無料でもって自動車を提供してもらったと、そして後援会等の謝礼を自分の本を売って収益を上げた、このことによって議員まで辞職するところまで追い込まれておる。当時ライト氏が言うのには、「私は無実である。しかしながら議会の運営上このように問題になったからには私は辞任しなければならないので、無実だけどやめる」、こういう状況になっております。

国会においても、宮沢蔵相を初め数人の閣僚がリクルートでは無実であるけれども、しかしいろいろと騒がせたということで大臣の席もやめておる。その金額については大体 1,000万円から 2,000万。釈明によりますと、「株の売買は正規のルートであるから、したがってこれについては別に私はやましいことはない。ただ政治家という立場において若干問題があるのもって、私はその点については反省をいたします」、こういう程度でございます。

今回の問題もやっぱし同じだと思います。あの土地は、平均さっきも申しましたように入り口が 1.2メートル、奥行きが 1.5メートルございますから、約50平方メートル弱の土地になるわけでございます。時価評価でまいりますと 2,000万前後するものでございます。大変なものです。それがあたかも個人の所有地というような形でもって利用されておった、それが新聞紙上に出てしまったのもって、困ったのもって、これについては家屋調査士に頼んで、そして測量してもらい、そして払い下げしていくと、こういう手順であろうかと思ひます。この点につきましては、県の方に聞きましたら、「用途廃止をしたいということでもって、書類の手続を近々にしたいのもってよろしく願いしたいと、まだ手続はとられておらないけれども」、こういう回答を得ておりますので、そういうことでもって進んでおるだろうと、このように思っているわけでございます。

そこで、ただ一般的にはこれでもって私は済むと思ひます。でも、私は市長という立場にある方は一般の市民と違った扱いを受けなきゃならないということを私はここでもって特に申し述べておきたいわけでございます。それは、過日の朝日新聞の社説の中にこう書いてありました。「首相という公人はプライバシーがかなり制限されることもやむを得ないことである。また政治家の倫理は一般の国民より特に重いのは当然であり、市民と同じ考えに立つことは間違いである」、こういうことを言われております。館山市長というのは非常に大きな権限を持っているわけです。その権限を持っている人が行うということ、特にこの赤道については国有地でありながら、その道路の使用、維持については市長に委任されているわけです。市町村で行うわけ

です。その人がそういうふうにするということについては一般とは違う大切なものがあると、この面のけじめをつけてもらわないと私は今後の行政運営にかかわるというふうに思うわけでございまして、特に私はその後の処置について非常に不満を持っておるわけでございます。

それは、市長は安易にあそこの土地を用途廃止をしていくんだということでございますけれども、この点について私は慎重を期していただきたい。できれば用途廃止等を自粛してもらって、あそこの道路は道路としてきちんととって、それはあの状況からいえば、あそこの駐車場の真ん中を二つに切られるということは、両方の土地を持っている市長さんについては非常に不利益かも知れない。不利益でも市長である限りは不利益に甘んじてもらいたい。というのは、ほかの市民が国道だとか県道、市道の境でもって自分のうちが制限されたり自分のうちが建てられなかったり、私も幾つか扱っておりますけれども、国道にかかっているためにそこを垣根を出してしまったのに撤去させられたと。払い下げ申請したってなかなかおりない。今も一つ私は5年越しでもってお願いしている国有地の問題あります。なかなかうんと言いません、それは。しかしながら、市長は安易に自分の判を押せばそれでもってある程度書類は上がっていくわけでございますから、そういうことが行われるということになれば、市政に対して示しがつかない。

それは、市長であるがゆえにそのことは――それは合法的にやられて、別にその市長の権限云々ということじゃなくても、今公道を自分の土地に隣接していて、これは一般的な考えでもっていけば十分払い下げはできるというふうに判断しても、市長である限りはそれはやられたんじゃ困るんです。そのことのけじめというのをつけてもらいたい。

特に、あそこの額は小さいかも知れませんが、今後出てくることは、払い下げになれば用途廃止になって大蔵省へ移る、大蔵省から払い下げになれば幾らになるかわかりません。1,000万なら1,000万で払い下げるかわかりません。時価評価が3,000万円でしたらそこで2,000万の利益を得たということになるんじゃないありませんか。リクルートの竹下さんなんかよりもっとひどい額になってしまいます。アメリカの下院議長以上の額になってしまう

んです。そうなったときには大変な事態になるんです。そのことをやっぱし慎重を期してもらいたい。

そういう意味では、一般の市民の中には国有地の問題、県有地の問題、市道との境界、そのために自分のうちの商売とか自分のうちの生活が遮られて困っていると。この市道をおれのところへ払い下げてもらえればということはあるんですけども、それができない。できないで我慢している市民がいるということをやはり、そしてそれを監督している責任者が市長であると、自分がそれはできるんだからと安易に — 安易じゃなくても、苦勞してやってもそれは苦勞じゃなくて、市長がやっていて我々は何だと、こういう形にはならないかというふうに思うわけでございまして、その点についてはどのようにけじめをつけられるのか、ひとつお伺いをしたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 御忠告として承っております。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） そういうことでもあれですけども、私は先ほど、これは新聞報道で見ますと、安易に過ぎたわけでございますけれども、ミスだということでございますけど、私はこれは十分国有地ということでもう知っておったと言わざるを得ないと思うんです。というのは、先ほども市長さんが言われましたように、北条の2196の2番地というのは昭和29年の3月に相続されておるんです。そして、この北条の2194の2、そしてその隣の土地につきましては昭和34年の10月1日付でもってこれは買収が完了しているわけでございます。そのときに当然あそこの道があったわけでございますから、そこの大きな道です。あの道の面伝いに今鶴ヶ谷の児童公園のところまで舗装されているじゃありませんか。あの土地があそこで切れていること自身不思議であったし、他人の土地であったわけですから、当然その点では、34年です。知っているはずでございます。

と同時に、34年の10月には両方のあの土地の前1メートルが館山市の道路拡張のために館山市に売られているんです。館山市が買収しているんです。当然そのときには測量しますよ。1メートルやると。両方ばらばらに売られ

ているんです。当時あそこでもって拡張したときには、渡辺さんという方が一方でもって払い下げの交渉を受け、そしてそこで決済されております。片一方は市長さん自身が決済されている。当然あその真ん中の道を挟んで行われているのが34年でございます。

そういうことを見ていくと、うっかりミスというような形でもって過ごせない。これは前の中曽根さんや竹下さんと同じでもって、私は全く知りません。そういう人は知りませんが、後になったら大変親友であったりして大変な事態になったと、それと同じようなこと。私館山市会の中でもそういうこと通してはならんと、またそういうことでもって今回の問題を済ませていきますと、議会は何やっているんだということにもなりかねない。私はここでもって、そういう意味では今後この問題については今申し上げましたような観点に立って私は慎重に対処してもらいたい。

まさにこれはもう市長の私は辞任か云々という問題に発展します。笑い事じゃありません。今日本の内閣は全部そうでしょう。たったあれだけのことということがあるでしょう。アメリカでもそうです。どこでもそれに匹敵する、額といい、内容といい、同じなんです。もう時代がそこまで来ているんです。館山の市会もいつまでもおくれたいはいけないわけございまして、やはり中央並みに、国際並みにやっぱしきちんとそういう時代に沿ったけじめというものをつける必要があるというふうに思うわけございしますので、その点については一応 ― もっと具体的になりますと問題が出ようと思えますので、要望いたしまして、後日に聞きたいと思います。

それから、3番目の半島振興法の問題でございますけれども、今も同じでございます。一つは、半島振興法は去年まで館山の過疎化からの脱却の決め手に、てこに活性化をするんだと出ていたのに、ことしの方針にはなぜそれがなくなったのか、お伺いしたい。

それから、同時に今市長の方からいろいろと立派なことが並べられました、水問題、道路問題、文化ホール、南パラ云々ということでもって。これはさきの国会の中でもって、決算委員会でもって問題になったんですよ。半島振興法の前算が幾らついているかわかりですか。4年間毎年 2,500万円しか

ついていなんですよ。国会で問題になって、半島を振興するのに 2,500万で何の仕事ができるんだと、空じゃないかということになりまして、これはもう大変な問題になったわけです。内容はいいんだけど、今言ったようなことは全国でもって 2,500万しかないんです、予算が、4年間。今後の見通しはどうなるかわからない。まさに選挙のための、内閣を維持するための、地域の住民に対していかにもあめ玉をしゃぶらせて、館山市もそれに乗って一生懸命やったわけですけど、内容は 2,500万です。19カ所ですよ。それが半島振興法の内容ですよ。国会でも大変な問題になっていまして、もう哑然としているわけです、みんな。しかしながら、今市長さんが言うのは、県としてやはりこういうふうな事業をやるというものを、それに半島振興法と結びつけていこうと、半島振興法とその予算じゃ全然関係がない、こういうことなんですけれども、この点についてはどうなのか。そういう点については、ことしの施政方針の中には半島振興法を削ったというのはそういう背景があったのかどうなのか、その点についてお答えをいただきたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいまの件でございますけれども、施政方針の2ページに、当地域を取り巻く情勢として横断道、東関東館山線、それから三角構想、半島振興計画事業の推進、とりわけ房総リゾート地域整備構想の承認見込みなど、半島性から脱却する絶好の機会が到来している旨記述してございます。半島振興計画事業の推進により当地域の振興が図られる点に関しましては、市の考え方は変わっておりません。

それから、次の第2点目の予算が 2,500万円 — 国土庁の予算でございますけれども、国土庁では確かに予算は組んでございませぬけれども、これは各省庁で計画したものを国土庁が調整をするというようなことでございます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） その点については私はもうきちんと修正していかないと、市民はそれによって、半島振興法とリゾート法によって館山がいかにもすばらしいものになるんだというふうに錯覚しているわけでございまし

て、そこら辺についてけじめをつけていかないと、午前中の論議にもありましたように、やはり市民自身が自分で手づくりのリゾートなり過疎化の脱却というのを見ていかなければ、人によって国や企業に任せてもそれはできないということでございますので、この法案がそういうのが明らかになった以上はそのようにひとつ見直しを検討していただきたい。

それから、沼の用水路ですけども、立派な答弁はございました。しかしながら、末端では今洪水が出ているんです。私は2年越しでやっていますが、まだ川の改修していないんじゃないですか。それは現地の人は上から4メートルのを、今2メートルのところへ、下流へ流そうというんです。それはだれが調査したか知りませんが、大丈夫だというから大丈夫だと、冗談じゃないです。上が4メートルでもって下が2メートル、今の2メートルのところだって洪水が出て、2年前から私はここでもって質問してやっていますけど、いまだに直っていないじゃないですか。それが倍になれば、もうあふれるのはわかっているわけです。現地の農民の人たちがこれじゃ大変だと言ったら、いや土地改良なり向こうで専門家がやったから間違いありませんと。間違いなくたって、私の町内の上須賀部落では雨が降るとあそこで冠水しているわけですから、これはどういうことなんでしょうか。そこんところはもう少し地域の住民、実態というのを見てからやっていただきたい。非常に困るわけですから、時間がございましたので、一応要望といたしまして、やめたいと思います。

◎議長（飯田義男君） 以上で辻田 実君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時53分 休憩

午後3時13分 再開

◎議長（飯田義男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 既に通告をいたしました7点についてお尋ねを申し上げます。

第1点は、リゾート開発に関する問題であります。4月の18日、房総リゾート構想が国の承認を受けました。既に昨年の12月、またさきの3月議会の中でもこのリゾート構想の問題についてお尋ねをしまいたったわけですが、三たびお尋ねをしようとするものであります。

リゾート構想では、新たに市内に3カ所のゴルフ場の造成を計画しています。いずれも200ヘクタールを超える大規模開発であります。その半分はゴルフ場ということになります。昨年12月議会で半澤市長は、「ゴルフ場については特に問題がないと考えている」との答弁をしておりますが、とんでもないことであります。三芳村では議会がゴルフ場反対を決議していること一つ見ましても、ゴルフ場は大変問題がある施設であります。ゴルフ場は農業などによる環境汚染の問題があります。山林を取り払うために山の保水力が著しく低下する問題もあります。自然環境が破壊されるなど、いわば問題だらけだと言わなければなりません。こういう問題があるにもかかわらず、リゾートはゴルフ場を中心として開発をしなければならないのでありましようか。

確かに市長の言う企業には企業の論理があります。企業にとっては、どうしてもゴルフ場を中心に据えるねらいは、会員券販売による資金の早い回収ということがあるのではないかと考えられます。この構想では、リゾート開発の成否がゴルフ場の会員券販売の収益に依存するということでもあります。まさにゴルフ場開発がこのリゾート開発の中心であります。リゾート開発は市の百年の計を決めるとも言うべき重大な問題となつてまいりました。豊かな自然に恵まれた当市を首都圏の人々の憩いの場として開発を進める、これ自体は幾度となく論議されてきた事柄であり、市民も期待するところであります。しかし、このリゾート開発が企業のもうけ本位のゴルフ場中心でよいものでありましようか。

そこで、お尋ねをいたします。リゾート開発は館山の豊かな自然を生かしてこそだと思ふのでありますが、ゴルフ場中心のリゾート開発は大企業のもうけ本位ではないかと思ふが、どうお考えでありましようか。

次に、第2点であります。九重大井地区の山砂採取跡地に産業廃棄物が不

法投棄されていたが、市の対策はどうかという点についてであります。

去る3月市議会に大井地区住民から公害防止に関する請願が提出されました。この請願書によりますと、山砂採取業者の西崎建材は、産業廃棄物処理業の資格がないにもかかわらず、山砂採取跡地に産業廃棄物を不法投棄していたというものであります。市にも同様の陳情が出されていることとします。この問題については、6月県議会の我が党の代表質問でも取り上げられ、県の副知事が答弁に立ち、「産業廃棄物の撤去の指示を行った。5月16日現在一部を除いて撤去作業が進んでいる」と産業廃棄物の不法投棄の事実を認めました。確かに、産業廃棄物は県が所管する問題ではあります。しかし、問題は市民の生活環境が破壊されているなどの場合、市の対応が的確に行われていれば、被害を最小限に抑えることができたのではないかと考えてあります。市の対策はどうだったのでしょうか。また、許可条件に違反する重大な違法行為と思いますが、市の今後の対策はどうでしょうか。

第3点目であります。半導体工場の増設による地下水の大量取水が周辺に深刻な影響を及ぼすことが心配されるが、市の対策はどうかという点であります。

半導体工場が進出するとき、地下水の取水量は当初計画 3,000トンでありました。しかし、住民の反対でこれを 600トンにすることで、古茂口などの住民の同意のないままに県は開発を許可いたしました。改めて 600トンの地下水の取水であります。周辺住民の井戸などに影響を及ぼすのではないかと、いよいよ心配だと思ふのは当然のことです。この地下水の取水について市はどのように考えていますか。責任ある公的機関の専門的な検討がぜひとも必要と思いますが、いかがでありますか。

また、その検討結果について公開することも必要と思いますが、いかがでしょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第4点であります。消費税上乗せによる公共料金の値上げはすべきではないと思うがどうかという点についてであります。

消費税はこの4月から実施されました。いよいよ消費税が庶民いじめの悪税であることがはっきりしてきました。宇野首相は、「消費税は定着してき

た。悪いところは修正する」としています。消費税の悪いところは、所得の少ない者ほど負担が重くなることであります。まさに弱い者いじめ、庶民いじめなどと言わなければなりません。これを修正すれば、全部修正しなければなりません。すなわち、廃止しかあり得ません。消費税は廃止するほかはその修正は考えられないと思うのであります。まず、この点をはっきりさせた上で質問に入りたいと思います。

市自身の公共料金をどうするのかという点についてであります。3月14日付で自治省は、地方公共団体の使用料、公営企業料金等への消費税の転嫁についての考え方という指示文書を御丁寧にも出しました。この中では、各地方公共団体の現行料金等が適正なものである限り、現行の料金等に消費税相当分を単純に上乗せせざるを得ないものであるとしております。

そこで、お尋ねいたします。市は市営水道料金、くみ取り料金などの現行料金が適正であるとの認識のもとに3%値上げを提案してきたものと思います。しかし、いずれも市民の批判の強いところであり、議会の継続審議となって、4月からの実施はできませんでした。そもそもこれらの現行料金については、市民の立場からすれば適正とは言えず、値上げよりもむしろ値下げすべき点があります。まして、消費税分の値上げは認められません。改めて検討する必要があると思うのであります。この提案については撤回をすべきと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、納税義務のない公共料金についてであります。これらについては消費税転嫁を検討するとのことでありました。しかし、今回はこれらの提案はありませんでした。消費税への転嫁を当面は見合わせるべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

特に住宅使用料、市営住宅の家賃の問題についてお尋ねを申し上げます。今年度当初予算によりますと、住宅使用料として市に入る家賃の総額は4,437万円であります。一方、住宅費として支出しているのは1,476万8,000円であります。差し引き3,000万円近くも家賃収入の方が多くなっている現状であります。住宅使用料は消費税の納税義務はありません。消費税による住宅費の費用負担がふえたとしてもわずかで、現に家賃収入が住宅費支出を大

幅に上回っているのが現状であります。市営住宅家賃の値上げの必要は当面ないと思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

第5点目であります。市立博物館など市施設のシルバー割引など、高齢者福祉の問題についてであります。

市は鳩山荘の利用料金について、市内60歳以上のお年寄りや障害者に対して割引を実施しております。そのほかに、市の施設としては博物館が入館料について70歳以上の方を対象に無料としております。これらの料金についての考え方は、それぞれの事情があって決められてきたことだと思います。しかし、さらに一步考えを進めて、お年寄りや障害者への福祉という点から、市の各種施設の料金についても考える必要があるのではないかと思うのであります。

過日子供を連れて上野動物園に行くことがありましたが、ここの料金は子供と60歳以上のお年寄りが無料でありました。また、民間においても既にお年寄りや障害者を対象としたさまざまなシルバー割引制度などがとられております。

そこで、お尋ねをいたします。博物館が無料の対象とした70歳以上というのはなぜでありますか。鳩山荘のように60歳以上とその対象を広げるお考えはありませんか。また、温水プールや市民運動場の利用料金など、お年寄りや障害者の利用について、無料あるいは割引などについて御検討いただきたいと思いますが、いかがでありますか。

次に第6点、那古都市下水路など危険な排水路の安全対策についてであります。

市道2012号線 ― これは一中の南側にある道路であります、この道路に沿って那古都市下水路がありますが、先日この下水路に過って女性が転落し、肋骨を5本折るという重傷を負う事故がありました。現場の排水路を見ますと、一部にはガードパイプが設置されていて、転落事故を防止しておりますが、それはわずかにすぎません。市の管理上の責任も問われます。この道路は通学路にもなっていますし、中学生が部活動でランニングをするとか市民の散歩道になっているとか、かなりの交通も日常的にあるものであります。

早急に安全対策を講じる必要があると思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

また、この際市が管理している排水路で危険な箇所はないかどうか総点検する必要があると思いますが、いかがお考えでありますでしょうか。

第7点目であります。市内の道路交通体系についてお伺いをいたします。

国道 127号バイパスの工事が今年度中には全線供用の予定で進められております。この結果、自動車交通の流れも大幅に変わることになるものと思われます。しかし、国道 128号線との合流部から南に抜けるには、南町交差点に行かなければならず、バイパスとしての機能は十分に果たすことはできません。従来この路線については、都市計画道路3・4・11号線川名大賀線がありましたが、これとは別に県道館山白浜線のバイパスとしてこれにかわる路線の建設について、現実性が大変進んでいるようでございます。

そこで、お尋ねをいたします。国道 127号バイパスから先の館山白浜バイパスについて、どのようになっているのか、その見通しはどうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、市道1029線 — これは国道 128号線からコミュニティセンターの東側を通り、安布里踏切から大綱に抜けていく道路であります。大変狭い箇所があります。特にコミュニティセンターへの歩道橋がある付近は、大変狭くなっているため、自動車が行き交うこともできません。この部分の拡幅はどのように考えていますか。

次に、市道1125線 — 国道 127号バイパスから高井地区に入っていく道路であります。高井の神社付近が大変狭くなっているわけですが、この拡幅整備についてどのように進んでいますか。

いずれも、来年3月までに国道 127号バイパスが完成することになり、自動車交通の流れが変わることになると思いますので、これらの整備は急ぐ必要があると思いますので、その点についての考え方をお示しいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（飯田義男君） 半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、リゾート開発、ゴルフ場中心のリゾート開発についての問題でございますが、リゾート開発は本市の恵まれた自然環境を活用して進めなければならないと考えております。特に自然環境の保全に十分に留意しながら、地域住民の協力を得て、行政、企業、住民が一体となって推進しなければならないと考えております。

御指摘のゴルフ場の開発計画でございますが、これは総合的かつ複合的なリゾート開発計画の中の一施設として考えられておりまして、ゴルフ場単体の開発ではなく、スポーツ、教養文化活動、宿泊滞在、休養等さまざまな施設整備が計画されておりまして、地域振興に大いに役立つ計画であると考えております。地域経済の衰退、また高齢化の進む当地域にとって、地域経済の活性化は急務の問題でございます。したがって、自然環境との調和を図りながら、市にとって有意義な開発計画を推進してまいりたいと考えております。

第2点、九重大井地区の産業廃棄物の問題についてでございますが、この件につきましては、県に問い合わせをしましたところ、確認されたものについてはすべて撤去させ、現在は深掘りされた現状の原形復旧作業をさせており、本年5月16日には一部を残して改善が終わり、残りの部分につきましても早急に埋め戻しをするよう指導中であるとの回答を得ております。今後市といたしましても、産業廃棄物について市民からの苦情等がございましたら、県に対し早期に適切な措置を講ずるよう要望してまいる所存でございます。

次に第3点、半導体工場の増設による地下水の大量取水が周辺に深刻な影響を及ぼすことが心配されるが、市の対策はどうかという御質問でございますが、NMBセミコンダクター社は新工場増設に関する開発行為の許可申請を県に提出し、現在県庁の関係各課で計画内容を検討中でございます。同社は、新たな取水量として日最大 600トン希望しております。県におきましても十分な指導がなされるものと考えますが、市もさらに安全な取水と万全の観測体制を指導し、実行させ、安全に新工場を操業させる考えでございます。

す。

次に第4点、消費税分上乘せによる公共料金の値上げはすべきではないと思うがどうかという御質問でございますが、この件につきましては、永井議員、田沢議員に回答いたしたとおりでございますが、消費税は既に4月1日から法律が施行、適用され、地方公共団体が行う財貨、サービスの提供等についても原則として課税対象となるため、市といたしましても使用料、手数料等の見直しを行う必要があるところでございます。消費税法にのっとり、適正な転嫁をすべきものと考えております。

また、納税義務が免除されている地方公共団体の行う事業につきましても、その経費に課税されるため、もし使用料、手数料等に転嫁を行わないとすれば、本来サービスの受益者である市民が負担すべき消費税を受益者以外の市民が負担することになりますので、公平な負担という見地からも、実施することが必要であると考えます。したがって、今後住宅使用料等につきましても料金の見直し等を進めてまいりたいと考えておるところでございます。

第5点は、教育長から御答弁申し上げます。

次に第6点、那古下水路など危険な排水路の安全対策についての御質問でございますが、都市下水路などの安全対策につきましては、交通量も多く、危険性の高い箇所、安全施設を設置することが可能な場所については整備をしてきております。今後状況の把握に努め、必要と思われる箇所については、関係機関と協議し、対応してまいります。なお、御指摘の那古下水路につきましては、地元とも協議いたしまして、ガードパイプ等の設置について検討してまいりたいと考えております。

第7点、市内の道路交通体系についての御質問でございますが、館山バイパスの供用に伴う市街地の交通混雑の緩和と神戸、富崎、白浜方面への円滑な自動車交通確保のため、館山バイパスの延伸となります主要地方道館山白浜線バイパスが県事業として計画され、事業化が進められております。昭和62、63年度におきましては地形測量、地質調査及び将来予測交通量調査が行われ、引き続き路線測量及び詳細設計が実施されているところでございます。全体計画につきましては確定しておりませんが、地域の皆様方の御理解と御

協力を得ながら、早期完成を目指しまして県に要望し、市も協力してまいる所存でございます。

市道1125号線につきましては、現在用地交渉を進めている段階でございますが、全対象地権者の了解がほぼ得られておりますが、区共有地が含まれておりますので、事務手続等について相当期間を要するものと存じます。今後用地取得が終わりましたら、早急に工事を施行したいと考えております。

次に、市道1029号線の道路改良につきましては、現在実施測量設計をお願いしているところでございますが、改良計画がまとまりましたら用地を取得し、改良工事を施行する予定でございます。

答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

市立博物館などの市の施設のシルバー割引の点で、御指摘の点でございますが、現在市内居住者で70歳以上の方及び身体障害者の方は入館料が免除されておりますが、70歳以上の高齢者と定めた根拠についての御質問でございますが、創立当初老人福祉法による医療給付の受給対象者が70歳以上であったということに基づいて定められたやに承っております。

また、市の社会体育施設の割引でございますけれども、市内の幼稚園児、小中学生、市内にあります高校あるいは体育協会等の使用につきましては割引等はございますけれども、一般の使用につきましては特別な割引はございません。

今後高齢者の割引年齢の引き下げにつきましては、市の他の施設、それから他市町村の状況、こういうものを十分に研究をいたしまして、検討させていただきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 市長さんはリゾート開発の問題で、私はゴルフ場が中心のリゾートになっているという点を指摘しているんですが、複合的な

開発ということで、その一つだと、そういう位置づけであるんだという、この立場3月の議会のときでも表明されて、依然として変わっておらないんですけれども、企業のこのリゾートの計画の中でもゴルフ場はやっぱり中心なんです。これはもう明らかです。ゴルフ場がなければこのリゾート計画そのものが成り立たないという、これは資金的にも採算的にも、これは企業が認めているところじゃないんですか、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） おっしゃるとおり、かなりといいますか——かなりのウェートを持って企業側は考えておるというのが実情であろうと思います。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 聞くとによれば、企業はゴルフ場が認められないんならばこの計画そのものは根底から崩れる、したがって進出はできないんだ、こういうふうな話も聞いておりますけど、そういうふうと考えてよろしいですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 企業側としますと、やはりゴルフ場を全くなくしてしまったら考え直すというのは、かなりの企業がそういうふうに思っているんじゃないかというふうに考えております。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 県のゴルフ場開発計画の取り扱い方針、これは59年の4月につくられて、これは現在も生きているかと思うんですが、これによりますと、都市計画区域なりでは1%とか、いろいろと市の面積に対するパーセント割合示しておりますけど、館山は何%ですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 3%でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 今館山で2カ所ございますけれども、このゴルフ

場が新たに3カ所出ますと恐らく5%ぐらいになるんじゃないかなと私試算で思うんですが、何%ですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 4.1%ぐらいになります。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 県のゴルフ場開発計画の取り扱い方針の3%を超えるということで、県自身が決めた方針を超えているということで、やっぱり大変なことだろうと思うんですが、そこでちょっと違った点から、このゴルフ場の取り扱い方針の中では、ゴルフ場は基本的には凍結するという方向で、かなり規制するというふうに出されたものですから、この中では市町村及び地元住民から積極的かつ強力な要請があったものを県としては協議の対象とする、こういう文面がございますね。館山市が積極的かつ強力な要請を県に対してするのかどうかという点ですね。これは市自身の責任の問題です。

それと同時に、地元住民から積極的かつ強力な要請、こういうことが要件になっているんですけども、こういう要請が現在のところあるというふうに考えておるんですか。これまで地元での説明会等をやってこられたようですが、地元での意見等を伺いますと、なかなかいろんな意見が出てきておって、積極的かつ強力なというふうな状況では全くないというふうに私は理解するんですけども、その辺を含めましていかがですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 先ほどの質問にちょっとつけ加えさせていただきたいと存じますが、当初の県の指導要綱、指針によりますと、各市町村3%以内ということで抑えられておったわけでございますが、御案内のように半島振興法の実施地域ですか、この地域にあっては別に2カ所を設置してもいいというようなことがございます。また、その設置に当たっては、市の基本方針に沿っている地域というようなことで現在は基準はなっております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そのことはわかりましたよ。プラスアルファがあ

るからというんでしょうけども、もともとの基準からすれば3%と、それは超えているんだと、今特別にプラスアルファ見ましょうよというのが出たら、それで半島振興法の関係でクリアができると、そういう時代だと。しかし、もともとの基準からいえばそれは非常にオーバーしたもんだというのが現在の計画の状況だということです。

そこで、私今聞いているのは、これを認める場合は地元からの積極的な要請があるとか、地元の住民から積極的かつ強力な要請がなければ県は話しませんよと、そういうものは協議しませんよと、対象にしませんと言っているわけです。その辺どうなんですか。知っているでしょう、これ。第4条です。ちょっと時間が余りないですから、ちょっとよく見ていてください。それどういうふうにお答えになるのか。もう時間が限られていますから、次行きます。

ゴルフ客というのは、これ日帰り客がほとんどだというのが実態じゃないですか。今後道路事情がよくなればリゾートとして成立する余地が出てくるんだということで、道路整備を一生懸命やりますけれども、これは違えますね。ゴルフ場のグレードが高くなると、ゴルフ場の価値が高くなるということはあっても、リゾートとしてということじゃないですね。ほとんどみんな交通事情よくなれば日帰り客、これの日帰り圏に入ることですから、現実には長期滞在型と言われるリゾートというものと相反する形になるんじゃないですか。しかも、館山市が掲げているリゾートというのはファミリーリゾートです。今家族そろって1週間ぐらいゴルフをやるというのはかなりリッチな人で、まず考えられないです。何ですか、そうすると、ここで言うリゾートというのは。本気になってリゾートを考えているんだろうかと疑問に思うんですね。そんなお客いませんよ、今日本の中で。このリゾートというのは、そういうことからするとゴルフというものとは、非常にゴルフの今の成立条件というものと相反する内容を持っているんじゃないかなと、本来そのリゾートというものと。いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ゴルフ場は一つのリゾート施設の一部であると、

おいでになる方が全部が全部ゴルフ場へ行ってゴルフをやるということではなくて、例えばの話でございますが、御主人は、あるいは奥さんはそういうことで一日をゴルフで費やすこともあるだろう、あるいは別の一日はどこか見物することもあるだろう、あるいは海へ出かける方もあるだろう、あるいはまたそこに設けられた文化施設とかテニスだとか、そういうものを楽しむ方も出てくるだろう、こういうようなことで、一つの施設として考えられているわけでございます。したがって、必ずしも日帰りということではないというふうに考えます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 日帰りじゃなくて1泊するかもしれませんが、長期滞在型ということからすると、現在のゴルフというのはやっぱり高いんですね。リゾートというのはやはり長期滞在型だという、せめて1週間ということを考えても、これ1週間ゴルフ打ち続けるということとはとてもできないし、ゴルフだけじゃなくていろんなこともやるんだよというんだけど、やっぱり大変ですね、これは金が続かないです。そういう点から、このリゾートにゴルフというのは私大変ふさわしい施設とは思えないということです。

それで、ゴルフ場については、県は環境に対して農業の安全使用に関する指導要綱というものをつくったと、これは千葉県が全国一最初につくったということで自慢しているようですけれども、最初につくっただけにもう手抜きだらけで、穴だらけですね。市では独自に環境保全協定なんか結ぶこともやぶさかじゃないという御答弁が3月議会でありましたけれども、本当にやるんですか、どんな内容でやるんですか。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） これはまだ実際に細部にわたっての検討等はしてございませんで、これから検討してまいりたいということでございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうだと思います。これから検討で先へ先へ延ばすんでしょうけれども、今現実にこの話進めようとしたら、この問題を避け

て後回しにして話が進むということは絶対ないですから、どんなに今農業の問題について住民が不安に思っているかというのは、三芳村のこともありますし、どこへ行っても大問題なんです。この問題について明快なやっぱり市の態度、立場なりが出されない限り、これは住民は納得できないですね。少なくとも県の農業使用の指導要綱、これはたくさん問題があります。けれども、県のあれは事業者から報告を求めるということが中心になっています。したがって、公的な定期的な調査とか、それから問題がある場合への立ち入り調査とか、あるいは農業の被害が出た場合の使用禁止だとか、そうした事項を行うための調査、監督、監視していくための費用の負担の問題を、原因者負担ということで企業に負担をきちんとさせる問題ですとか、こういう問題が明らかになっていないと思うんです。どうしても最低こんなことは必要だろう。

さらにまた、自然保護ということがこの農業使用ということの指導要綱の中では抜けていますから、環境保全の場合には当然環境庁の指定をしております植生自然度表、御存じですか、これ、環境庁の植生自然度表。市は何ですか、原生自然環境保全地区、これは手はつけないと、それ以外は人間との共存を図るということで手を入れるんだということを言っていますから、そんな生易しいもんじゃないです。環境庁の植生自然度表、これに沿った自然度調査なんていうのはきちんとやる必要があるんだと思うんです。この辺についてどういうふうにお考えになっているか。今後検討するということでありましょうけれども、いかがですか。

それと、先ほどの — もうそろそろ答弁いただきたいんですけど、市町村及び地元住民から積極的かつ強力な要請があったものを協議の対象とする — このゴルフ場の県の取り扱い方針、御承知ですね。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 大変申しわけないんですが、聞いたことは聞いていますが、はっきりと私は今覚えておりませんで、大変恐縮でございますが、聞いたことはございます。

それから、いわゆる指導要綱で報告だとかあるいは立ち入りだとか、そう

いうものについてあるけれどもというようなことでございましたが、これにつきましてはもう既に ― 県のこれは指導要綱でございますので、県でもそれなりの調査等は実施しておるところでございます。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） よくおわかりになっていない点があるんじゃないかと思いますが、県の指導要綱は大変手拔かりがある。一番早くやっただけに一番手拔かりがあるんです、千葉県のが。ですから、ほかの県のもちゃんと取り寄せなきゃいけないでしょうし、それから市町村レベルでも、あるいは住民団体レベルでも農業問題についての規制をきちんとしてほしいかということでのいろんな規制があちこちで取り組まれていますから、そういうものをきちんと勉強されて、館山市としての規制はどうあるべきかということを出さなければ、住民の中に話なんかできませんよ、この問題は。そういうことがよくわかっておられないようでありますから……。

地域振興上の特例措置、千葉県におけるゴルフ場開発計画の取り扱い方針、59年4月の改訂版です。これ今生きているわけですよ。この中の第4項、地域振興上の特例措置としていろいろありますけれども、こういう場合は県としては協議の対象としましょうということで幾つか挙げている事項の中で、市町村及び地元住民から積極かつ強力な要請があるものであってということで、これを協議の対象にしているんです。住民の要請、積極的かつ強力な要請があったときに、初めて県はそのゴルフ場の開発については話に乗らしましょうと言っているんです。地元の説明会やったりなんかやってどうなんですか。本当にそんなにみんな積極的にゴルフ場やってくれと、ぜひつくってくれと、そういう声があるんですかということを知っているんです。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 現段階ではリゾート開発の中でその内容をお示し申し上げて、そしてこういうことでリゾート開発この地域はやりたいんだということで説明の段階でございまして、まだ皆さんからいいかどうかとか、そういうアンケートをとるとか、あるいは調査をしているとか、そういうよ

うなまだ段階ではございませんで、今どういう方法でどんなものをどこにやりたいと、こういうような説明をしている段階でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） わかりました。そうすると、現時点ではない、積極的かつ強力な地元からの要請なんていうのはないんだ、企業が一生懸命やりたいと言っているという、こういう段階だと、こういう理解で今のお話を承ります。

そうすると、市はどうなんですか、そういう中で。市の積極的な強力な要請も必要なんですね、住民と同時に。市は積極的かつ強力に要請する、そういう立場でございますか。それが一つ。それともう一つは、住民から積極的かつ強力な要請がなかったならばこれは計画はオジャンですと、そういうふうに理解していいですね。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 市の考え方はどうかということでございますが、市といたしましては、再々市長の方からお話がございますように、どうしてもこの地域にとってはリゾート開発をしなければならないと、そして地域興しをしなければならぬんだと、そういうことで御説明申し上げているわけですが、それをやるのにはやはり一つの条件として、この地域の立地性だとか、あるいは置かれている市の状態、こういったものから勘案して、やはりゴルフ場がその大変大きなウエートを占めていることだということで、ぜひともこれは皆さんに御了解をいただいて、このリゾート開発を進めたいというように考えております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 後半の答弁が欲しいんですよ。地元からの積極的かつ強力な要請がなかった場合にはこの計画はあきらめるんですね。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 何とか協力をいただけるように努力いたします。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 現時点ではないようでありますから、三芳村なんかでは住民の過半数に及ぶゴルフ場建設反対の署名が出されたりしたということがあって、議会でもそういう決議しましたから、そういうことが館山であるかなということも考えなきゃならぬと思います。

では、次の問題で、大井地区の問題であります、これは県の中で問題になりまして、市も率直にこれまでの経過について反省もいただいて、今後こういうことのないように早い時期に対処できるようにする、こういう御決意だというふうに今の御答弁伺います。

それから、半導体工場の問題でありますけれども、県の指導も得ながら、市としても安全、それから水量の不足ということを来さないように観測体制なり整備していくように考えていきたいんだと、こういう趣旨だったかと思うんですが、そこでこれもやはり開発の申請に当たって、前回のときも古茂口の住民が最後まで反対したという経過がありまして、最後まで同意書に判を押さなかった、こういう経過があるわけです。しかしながら、県が許可をしたという、これは県知事の特権でもうやったというふうに私は思いますけれども、こういう経過があるわけです。通常はこうした住民の同意なしにやるということはありませんことだろうと思うんです。当然今回の場合は、さらに600トンということになりますから、より問題は深刻だと、住民の目から見ても、合計1,200トンということになるわけですから。当然今度は古茂口の住民も含めまして周辺住民の同意が必要だと、こういうふうにお考えでありますか。

◎議長（飯田義男君） 公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 住民の同意は必要でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると、今本当に安全の問題について住民が納得できる、安全だと市が納得するだけじゃなくて、住民が確かにこれなら大丈夫だと、間違いないと納得できるということがなければ、この開発については半導体の増設工の開発の許可はないものというふうに理解してよろしいですね。

◎議長（飯田義男君） 公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいまの件でございますけれども、前はそういったような調査のできなかった面もあるわけでございますが、今回は古茂口地区の一部でございますけれども、約77件の井戸の現況調査を済ませております。また、山本の一部につきましても、80件でございますけれども、これも済ませております。それから、宝貝地区については全部、36件がやはりそういうようなものを終了させております。そういうようなものから、今回は非常に厳しく対応しているつもりでございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） この地下水の問題について1点伺っておきたいと思う点がございます。それは、ちょっと見方を変えますけれども、地下水についての考え方といいますか、これについてどう考えておられるかという点です。地下水がこれは今非常に大きないろんな意味で問題になってきているわけでありまして、今度の山本の半導体工場で新たに600トンということで取水をする。割り切れないと感じるのは、これは我々は地下水というのは水道水源としては最も適当な、適切な水源だということが言われてきているわけです。日量600トンということは、こういう水道水源として公益優先でやはりこの地下水というのは考えられるべきでないのかというふうに思うんですが、この辺について地下水というものは一体だれのものなのかと、そういう議論に発展する要素を持っているわけですが、この辺について市はどういうふうに基本的な考え方を今お持ちでありますか。

◎議長（飯田義男君） 公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 地下水はそれぞれの地権者の方々が利用するというのが現在の考え方でございます。ただし、今回のような開発に伴う取水は、影響を周辺に及ぼさないように開発行為の規制の中でチェックしていくことになるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 次の第5点目に移りますが、消費税分上乗せによ

る公共料金の問題です。この自治省の通達の中では、適正なという問題について、消費税分単純に上乘せしると、適正なものである限りという条件をつけて言っているんです。ですから、現在あるものがすべて適正だと単純に考えることはできないわけです。現在のいわゆる使用料なり手数料なり、こうした公共料金がすべて適正なものだという前提をとることはできないと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 現在公共料金については、議会等の承認も得ておりますし、また十分内容についても吟味しておりますので、適正なものだと思っております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） それは決めたときはそうでしょうけれども、決めてから3年とか5年とかたって、いろいろ問題が出てきているものもたくさんあるわけです。そういう点、じゃくみ取り料金ですとか、あるいは水道料金とか、いろいろ論議をしてきたわけです。水道料金は、端的に7%からの水道料金に対する収益を上げていますから、こういう収益を上げている料金を適正なものとしなして単純に3%乗せるのはどうしたものかと、こういう議論も3月議会で指摘したわけです。改めてそういうことを含めまして、現在くみ取り、水道料金の適正なというのは私は大変問題があるんだという点について指摘をしておきたいと思うんです。

大分時間があれですから先へ進みますが、住宅使用料についても検討なされるということではありますが、これは実際、現在住宅使用料、市営住宅からの家賃収入の総額は4,437万、こういうのが実情ですね。これは当初予算ですけれども、実際に住宅費と支出しているのは1,476万8,000円。住宅使用料というのは、非常にそういう点からすると、過去の支出、償却分あるいは利息分とか地代とか、消費税とかかわりのないようなところから料金が算定されるという傾向が非常に強いわけです。そういう結果がこういう形で、実際の単年度の収支で見ますと3,000万円近くも家賃収入の方が多いと、こう

というような実態になっているわけです。これは当然こういうことから考えれば、市営住宅の家賃についての値上げというものは、現在のところ値上げの必要はないんじゃないんですか、消費税の問題がありまして。

◎議長（飯田義男君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） これから実は調査をするということになっております。最初に家賃を決める場合にも、いろいろ低所得者に低賃金でというような兼ね合いから、家賃の設定に当たっても相当下げて決めておるというようなこともありますし、また過去の料金の値上げ、そういったものもございしますので、これからよく検討した上でどうするかということを考えていというように思っております。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 教育長さんにお伺いいたしますけれども、他市の状況を検討してということでもありますけれども、こうしたシルバー割引制度ということで、非常に民間レベルでもかなりやっておるということで、県の施設はやっていないんです、これが。ですから、市の施設やなんかがやるということも、例えば県の施設というようなことで具体的にいろいろありますけれども、こういうところを含めまして、非常に県等への働きかけも含めて、あるいは他市の状況を見てというだけではなくて、むしろ積極的に館山市の方がやる必要があるんじゃないか。

例えば、鳩山荘のことでは、恐らく全県下で館山だけではないかと思うんです、やられたというのは。そういう点では、館山市がむしろ進んでいるというふうな認識を持って、むしろ進めていくんだというぐらいの認識を持って、他市の状況を見てというのではちょっと何か心もとないなという気がするんです。実際それほど大きな予算がかかるという性格のものでもありません、率直な話。ですから、ここはぜひ実施の方向を打ち出していきたいなど、博物館なんかについてもぜひお願いしたいんですが、いかがですか。

◎議長（飯田義男君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 割引制度等の問題につきましては、直ちに割引の年齢を下げますということは軽々しく答えられない問題でございまして、い

ろいろな関係の施設等をよく調べませんと、一遍決めますとまたこれを変えるわけにいきませんので、慎重に努力をいたしたいと思います。同時に、また御趣旨に沿うような努力をしたいと、こう考えております。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後4時07分

◎議長（飯田義男君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は明6月20日午前10時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問